

| | | |
|-----|--------------|-----|
| 国語科 | 論理国語 | 3単位 |
| 3学年 | 特進文理コース選抜クラス | |

1. 授業の目標

- (1) 近代以降の文学作品や評論を読んで、作品を正しく理解し、思考力を伸ばし心情を豊かにする。
- (2) 進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を育てる。
- (3) 模擬試験平均偏差値45以上とし、目標達成に向けた努力を促し、日々の授業で実践する。

2. 授業内容

- (1) 論理的な文章について、文章の構成や展開に注意して筆者の論の進め方や強調点をとらえ、要約したり、詳述したりする力を養う。
- (2) 文学的文章について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (3) 副教材「共通テスト過去問レビュー [国語]」を演習教材として、解法のテクニックの向上を図るとともに、実戦力をつける。
- (4) 副教材「トータルポータル新国語便覧」を用いて、作者や作品の背景に迫り、多角的な読解を目指す。
- (5) 副教材「チャレンジ常用漢字」「高校生必修語彙ノート」を用いて全10回の小テストを行い、受験に必要な語彙力を養う。

3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
 - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識及び技能】
 - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握できる。【思考力・判断力・表現力等】
 - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。【思考力・判断力・表現力等】

4. 使用教科書

| | |
|-----|------------------------------|
| 教科書 | 東京書籍 『精選論理国語』 |
| 副教材 | 大修館書店 『トータルポータル新国語便覧』 |
| | 東京書籍 『精選論理国語 学習課題ノート』 |
| | 桐原書店 『高校生必修語彙ノート』 |
| | 第一学習社 『チャレンジ常用漢字 漢検級別対応』 |
| | 河合塾 「2025 共通テスト過去問レビュー [国語]」 |

5. 小テスト実施計画 「チャレンジ常用漢字」「高校生必修語彙ノート」

| | | | | | |
|-------|---------|----------|---------|---------|---------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8、9月 |
| 常用漢字 | 準2級第1回 | 準2級第2回 | 準2級第3回 | 準2級第4回 | 準2級第5回 |
| 語彙ノート | 標準・小説①② | 標準・小説③④ | 標準・小説⑤⑥ | 標準・評論①② | 標準・評論③④ |
| | 10月 | 11月① | 11月② | 12月 | 1月 |
| 常用漢字 | 準2級第6回 | 準2級第7回 | 準2級第8回 | 準2級第9回 | 準2級第10回 |
| 語彙ノート | 標準・評論⑤⑥ | カタカナ語①～③ | 四字熟語 | 発展・小説①② | 発展・小説③④ |

6. 年間学習計画

| 月 | 授 業 内 容 | 問 題 演 習 |
|----|--|-------------------------------|
| 4 | オリエンテーション <言語> 「混じり合う言葉」 ドミニク・チェン | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| | <時間> 「鏡の中の現代社会」 見田宗介 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 5 | 前期中間考査 | |
| | <情報> 「おじいさんのランプ」 宇野常寛 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 6 | 前期期末考査 | 実力問題 |
| 7 | <身体> 「読み書きする身体」 港千尋 【夏季休業】 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 8 | <哲学> 「ロボットは意志を持つか」 野矢茂樹 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 9 | <共同体> 「社会の壊れるとき —知性的であるとはどういうことか」 鷲田清一 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 10 | | 実力問題 |
| | 後期中間考査 | |
| 11 | <社会> 「サッカーにおける『資本主義の精神』」 大澤真幸 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 12 | 【冬季休業】 | |
| 1 | <論理> 「抗争する人間」 今村 仁司 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| | 卒業考査 | 実力問題 |
| 2 | | ※「チャレンジ常用漢字」 全9回小テストを実施する。 |
| 3 | | |

| | | |
|-----|--------------|-----|
| 国語科 | 論理国語 | 3単位 |
| 3学年 | 特進文理コース特進クラス | |

1. 授業の目標

- (1) 近代以降の文学作品や評論を読んで、作品を正しく理解し、思考力を伸ばし心情を豊かにする。
- (2) 進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を育てる。
- (3) 定期考査の平均点が60%以上になるように、日々の授業はもちろんのこと、試験前の準備や、授業前の予習・復習も積極的に行う。

2. 授業内容

- (1) 論理的な文章について、文章の構成や展開に注意して筆者の論の進め方や強調点をとらえ、要約したり、詳述したりする力を養う。
- (2) 文学的文章について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (3) 副教材「トータルポータル新国語便覧」を用いて、作者や作品の背景に迫り、多角的な読解を目指す。
- (4) 副教材「チャレンジ常用漢字」「高校生必修語彙ノート」を用いて全20回の小テストを行い、受験に必要な語彙力を養う。

3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。
【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
 - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識及び技能】
 - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握できる。【思考力・判断力・表現力等】
 - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。【思考力・判断力・表現力等】

4. 使用教科書

| | |
|-----|--------------------------|
| 教科書 | 東京書籍 『精選論理国語』 |
| 副教材 | 大修館書店 『トータルポータル新国語便覧』 |
| | 東京書籍 『精選論理国語 学習課題ノート』 |
| | 桐原書店 『高校生必修語彙ノート』 |
| | 第一学習社 『チャレンジ常用漢字 漢検級別対応』 |

5. 小テスト実施計画 「チャレンジ常用漢字」「高校生必修語彙ノート」

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8、9月 |
|-------|---------|----------|---------|---------|---------|
| 常用漢字 | 準2級第1回 | 準2級第2回 | 準2級第3回 | 準2級第4回 | 準2級第5回 |
| 語彙ノート | 標準・小説①② | 標準・小説③④ | 標準・小説⑤⑥ | 標準・評論①② | 標準・評論③④ |
| | 10月 | 11月① | 11月② | 12月 | 1月 |
| 常用漢字 | 準2級第6回 | 準2級第7回 | 準2級第8回 | 準2級第9回 | 準2級第10回 |
| 語彙ノート | 標準・評論⑤⑥ | カタカナ語①～③ | 四字熟語 | 発展・小説①② | 発展・小説③④ |

6. 年間学習計画

| 月 | 授 業 内 容 | 問 題 演 習 |
|----|--|------------------------------------|
| 4 | オリエンテーション ＜言語＞ 「混じり合う言葉」 ドミニク・チェン ＜時間＞ 「鏡の中の現代社会」 見田宗介 | 「精選論理国語学習課題ノート」 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 5 | 前期中間考査 | |
| | ＜情報＞ 「おじいさんのランプ」 宇野常寛 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 6 | 前期期末考査 | 実力問題 |
| 7 | ＜身体＞ 「読み書きする身体」 港千尋 【夏季休業】 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 8 | ＜哲学＞ 「ロボットは意志を持つか」 野矢茂樹 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 9 | ＜共同体＞ 「社会の壊れるとき —知性的であるとはどういうことか」 鷲田清一 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 10 | | 実力問題 |
| | 後期中間考査 | |
| 11 | ＜社会＞ 「サッカーにおける『資本主義の精神』」 大澤真幸 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| 12 | 【冬季休業】 | |
| 1 | ＜論理＞ 「抗争する人間」 今村 仁司 | 「精選論理国語学習課題ノート」 |
| | 卒業考査 | 実力問題 |
| 2 | | ※「チャレンジ常用漢字」 全9回小テストを実施する。 |
| 3 | | |

| | | |
|------|---------------|-----|
| 教科名 | 古典探究 | 2単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース・選抜クラス | |

1. 授業の目標

- (1) 古典としての古文や漢文を読解し、鑑賞する能力を身につけるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。
- (2) 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなど理解を深める。
- (3) 定期考査の平均点が60%以上になるように、日々の授業はもちろんのこと、試験前の準備や、授業前の予習・復習も積極的に行う。

2. 授業内容

- (1) 古文や漢文について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (2) 古典読解のポイントとなる文法力を身につける。
- (3) 副教材「トータルポータル新国語便覧」を使うことによって、作者や作品の背景に迫り、多角的な読解を目指す。
- (4) 副教材「学習課題ノート」を用いた演習を行い、学習内容を定着させる。
- (5) 副教材「重要古文単語315」をもとに小テストを行い、読解に必要な古典単語の知識を身に付ける。
- (6) 副教材「共通テスト過去問レビュー [国語]」を使って、出題傾向や形式を学ぶ。

3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。
【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
 - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
【知識及び技能】
 - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握できる。
【思考力・判断力・表現力等】
 - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。
【思考力・判断力・表現力等】

4. 使用教科書

| | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 教科書 | 東京書籍 「精選古典探究」 古文編 |
| | 東京書籍 「精選古典探究」 漢文編 |
| 副教材 | 大修館書店 「トータルポータル新国語便覧」 |
| | 東京書籍 「精選古典探究 古文編 学習課題ノート」 |
| | 東京書籍 「精選古典探究 漢文編 学習課題ノート」 |
| | 数研出版 「読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法」 |
| | 桐原書店 「基礎から解釈へ 漢文必携 基本編 チェックノート」 |
| | 桐原書店 「読んで見て覚える 重要古文単語315」 |
| 河合塾 「2025共通テスト過去問レビュー [国語]」 | |

5. 小テスト・演習実施計画 「読んで見て覚える重要古文単語315」

| | | | | | |
|----|--------------------|-------------------|------------------|--------------------|-------------------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8、9月 |
| 範囲 | 第一章 最重要語 全範囲 | 第二章 重要語 全範囲 | 第三章 敬語 全範囲 | 第一章 最重要語 全範囲 | 第二章 重要語 全範囲 |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | |
| 範囲 | 第三章 敬語 全範囲 | 全範囲 | 全範囲 | 全範囲 | |

6. 年間学習計画

| 月 | 授 業 内 容 | 問 題 演 習 |
|----|---|--|
| 4 | オリエンテーション ＜説話2＞ 発心集「蓮花城、入水のこと」 | 「重要古文単語315」小テストを実施計画に則り、実施する。 |
| 5 | ＜史話＞ 十八史略「赤壁之戦」 前期中間考査 | 「漢文必携チェックノート」を用いて、漢文句法を総復習する。 |
| 6 | ＜日記2＞ 紫式部日記「女郎花」 ＜史話＞ 日本外史「諸将服信玄」 前期期末考査 | 「体系古典文法」を用いて、助動詞を総復習する。 「漢文必携チェックノート」 |
| 7 | ＜詩3＞ 李白と杜甫「秋浦歌」「独坐敬亭山」 「絶句」「月夜」 | |
| 8 | 【夏季休業】 | |
| 9 | ＜作り物語2＞ 源氏物語(二)「なにがしの院」 「野宮の別れ」 | 「体系古典文法」を用いて、敬語表現について復習する。 |
| 10 | ＜歴史物語2＞ 大鏡(二)「三船の才」 「道長、伊周の競射」 | |
| 11 | ＜史記＞ 荊軻伝「風蕭蕭兮易水寒」 後期中間考査 | 適宜「共通テスト問題研究[国語]」を使用し、総合問題演習を行う。 |
| 12 | ＜評論＞ 俊頼髓脳「鷹狩りの歌」 ＜作り物語3＞ 落窪物語「姫君の苦難」 | |
| 1 | ＜小説2＞ 「桃花源記」 【冬季休業】 | |
| 2 | ＜俳諧＞ 芭蕉「富士川」「吉野の花」 蕪村「月夜の卯兵衛」「歳末弁」 | |
| 3 | 卒業考査 | |

| | | |
|------|---------------|-----|
| 教科名 | 古典探究 | 2単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース・特進クラス | |

1. 授業の目標

- (1) 古典としての古文や漢文を読解し、鑑賞する能力を身につけるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。
- (2) 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなど理解を深める。
- (3) 定期考査の平均点が60%以上になるように、日々の授業はもちろんのこと、試験前の準備や、授業前の予習・復習も積極的に行う。

2. 授業内容

- (1) 古文や漢文について、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう。
- (2) 古典読解のポイントとなる文法力を身につける。
- (3) 副教材「トータルポータル新国語便覧」を使うことによって、作者や作品の背景に迫り、多角的な読解を目指す。
- (4) 副教材「学習課題ノート」を用いた演習を行い、学習内容を定着させる。
- (5) 副教材「重要古文単語315」をもとに小テストを行い、読解に必要な古典単語の知識を身に付ける。

3. 成績評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。
【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
 - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
【知識及び技能】
 - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握できる。
【思考力・判断力・表現力等】
 - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。
【思考力・判断力・表現力等】

4. 使用教科書

| | |
|-----|---------------------------------|
| 教科書 | 東京書籍 「精選古典探究」 古文編 |
| | 東京書籍 「精選古典探究」 漢文編 |
| 副教材 | 大修館書店 「トータルポータル新国語便覧」 |
| | 東京書籍 「精選古典探究 古文編 学習課題ノート」 |
| | 東京書籍 「精選古典探究 漢文編 学習課題ノート」 |
| | 数研出版 「読解をたいせつにする 要点プラス 体系古典文法」 |
| | 桐原書店 「基礎から解釈へ 漢文必携 基本編 チェックノート」 |
| | 桐原書店 「読んで見て覚える 重要古文単語315」 |

5. 小テスト・演習実施計画 「読んで見て覚える重要古文単語315」

| | | | | | |
|----|-----------|-----------|-----------|------------------------|----------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7、8月 | 9月 |
| 範囲 | P34～P57 | P58～P61 | P62～P87 | P88～P97 | P98～P117 |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | |
| 範囲 | P118～P139 | P144～P161 | P162～P185 | P186～P193 P214～P221 | |

6. 年間学習計画

| 月 | 授 業 内 容 | 問 題 演 習 |
|----|---|--|
| 4 | オリエンテーション <説話2> 発心集「蓮花城、入水のこと」 | 「重要古文単語315」小テストを実施計画に則り、実施する。 |
| 5 | <史話> 十八史略「赤壁之戦」 前期中間考査 | 「漢文必携チェックノート」を用いて、漢文句法を総復習する。 |
| 6 | <日記2> 紫式部日記「女郎花」 <史話> 日本外史「諸将服信玄」 前期期末考査 | 「体系古典文法」を用いて、助動詞を総復習する。 「漢文必携チェックノート」 |
| 7 | <詩3> 李白と杜甫「秋浦歌」「独坐敬亭山」 「絶句」「月夜」 | |
| 8 | 【夏季休業】 | |
| 9 | <作り物語2> 源氏物語(二)「なにかしの院」 「野宮の別れ」 | 「体系古典文法」を用いて、敬語表現について復習する。 |
| 10 | <歴史物語2> 大鏡(二)「三船の才」 「道長、伊周の競射」 | |
| 11 | <史記> 荊軻伝「風蕭蕭兮易水寒」 後期中間考査 | 適宜「共通テスト問題研究[国語]」を使用し、総合問題演習を行う。 |
| 12 | <評論> 俊頼髓脳「鷹狩りの歌」 <作り物語3> 落窪物語「姫君の苦難」 | |
| 1 | <小説2> 「桃花源記」 【冬季休業】 | |
| 2 | <俳諧> 芭蕉「富士川」「吉野の花」 蕪村「月夜の卯兵衛」「歳末弁」 | |
| 3 | 卒業考査 | |

| | | |
|---------|-----------------|-------|
| 地 歴 科 | 地 理 探 求 | 4 単 位 |
| 第 3 学 年 | 特進文理コース [選抜 理系] | |

<授業目標>

地理を中心に世界史との比較において理解を深めつつ、世界的意義をもっている典型的な地理的事象・地域を具体的に取り上げ、地理的な法則性を見つけ出すような判断力を身に付ける。

大学入試を考慮した授業展開をし、共通テストでは60%以上の成果を目指す。

<授業内容>

3年次では第Ⅰ編の「人・モノ・金のつながり」、「人口と村落・都市」、「文化と国家」に加え第Ⅱ編の「現代世界の地誌的考察」で各国地誌を学習する。授業中に統計的数値を取り上げ、時代による変化の状況や要因について論理的に理解できるようにしながら、解法へのアプローチ法も身に付けさせる。

<学習到達度>

- ・ 单元ごとの小テストでは、70%以上の得点率を目標とする。
- ・ 各模擬試験においては、偏差値50以上を目標とする。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

| | 授業 or 課外 | 内 容 | 期間 or 単位数 |
|-----|----------|---------------------------|-----------|
| 2 年 | 地理総合 | 「地図でとらえる現代世界」、「国際理解と国際協力」 | 2 単位 |
| 3 年 | 地理探求 | 現代世界の系統地理的考察及び各国地誌 | 4 単位 |

<留意点>

- ・ 地図帳は授業中頻繁に使用するので必ず持ってくること。
- ・ 授業中に確認した都市などは必ず地図帳で印をつけておくこと。

<成績評価>

定期考査、小テスト、授業態度、出席状況、課題提出等すべての学習活動を総合して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点別に5段階で評価する。

<使用教材>

| | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-------------|--------|
| 教 科 書 | 新詳地理探求 | 二宮書店 |
| | 高等地図帳 | 二宮書店 |
| 副 教 材 | 新編 地理資料2022 | 東京法令出版 |
| | 新地理総合ノート | 帝国書院 |

<年間計画>

| 月 | 週 | 授 業 内 容 |
|----|------|-----------------------|
| 4 | 1 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 2 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 3 | 資源と産業 (農林水産業) |
| 5 | 4 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 5 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 6 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 9 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 10 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 11 | 人・モノ・金のつながり (交通・通信) |
| 7 | 12 | 人・モノ・金のつながり (貿易・観光) |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 人口、都市・村落 |
| 8 | 15 | 人口、都市・村落 |
| | 夏季休業 | |
| 9 | 16 | 人口、都市・村落 |
| | 17 | 人口、都市・村落 |
| | 18 | 文化と国家 (生活文化と言語・宗教) |
| | 19 | 文化と国家 (生活文化と言語・宗教) |
| 10 | 20 | 文化と国家 (国家とその領域) |
| | 21 | 文化と国家 (国家とその領域) |
| | 22 | 現代世界の諸地域 (東アジア) |
| | 23 | 現代世界の諸地域 (東南アジア) |
| | 24 | 現代世界の諸地域 (西アジアと北アフリカ) |
| | 25 | 現代世界の諸地域 (アフリカ) |
| 11 | 26 | 現代世界の諸地域 (ヨーロッパ) |
| | 27 | 後期中間考査 |
| | 28 | 現代世界の諸地域 (ヨーロッパ) |
| 12 | 29 | 現代世界の諸地域 (ロシア) |
| | 30 | 現代世界の諸地域 (南北アメリカ) |
| | 31 | 現代世界の諸地域 (南北アメリカ) |
| | 32 | 現代世界の諸地域 (オセアニア) |
| | 冬季休業 | |
| 1 | 33 | 現代世界の諸地域 (日本) |
| | 34 | 現代世界の諸地域 (日本) |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|---------|-----------------|-------|
| 地 歴 科 | 地 理 探 求 | 4 単 位 |
| 第 3 学 年 | 特進文理コース [特進 理系] | |

<授業目標>

地理を中心に世界史との比較において理解を深めつつ、世界的意義をもっている典型的な地理的事象・地域を具体的に取り上げ、地理的な法則性を見つけ出すような判断力を身に着ける。

<授業内容>

3年次では第Ⅰ編の「人・モノ・金のつながり」、「人口と村落・都市」、「文化と国家」に加え第Ⅱ編の「現代世界の地誌的考察」で各国地誌を学習する。授業中に統計的数値を取り上げ、時代による変化の状況や要因について論理的に理解できるようにしながら、解法へのアプローチ法も身に付けさせる。

<学習到達度>

- ・ 単元ごとの小テストでは、70%以上の得点率を目標とする。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

| | 授業 or 課外 | 内 容 | 期間 or 単位数 |
|-----|----------|---------------------------|-----------|
| 2 年 | 地理総合 | 「地図でとらえる現代世界」、「国際理解と国際協力」 | 2 単位 |
| 3 年 | 地理探求 | 現代世界の系統地理的考察及び各国地誌 | 4 単位 |

<留意点>

- ・ 地図帳は授業中頻繁に使用するので必ず持ってくること。
- ・ 授業中に確認した都市などは必ず地図帳で印をつけておくこと。

<成績評価>

定期考査、小テスト、授業態度、出席状況、課題提出等すべての学習活動を総合して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点別に5段階で評価する。

<使用教材>

| | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-------------|--------|
| 教 科 書 | 新詳地理探求 | 二宮書店 |
| | 高等地図帳 | 二宮書店 |
| 副 教 材 | 新編 地理資料2022 | 東京法令出版 |
| | 新地理総合ノート | 帝国書院 |

<年間計画>

| 月 | 週 | 授 業 内 容 |
|----|------|-----------------------|
| 4 | 1 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 2 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 3 | 資源と産業 (農林水産業) |
| 5 | 4 | 資源と産業 (農林水産業) |
| | 5 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 6 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 9 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 10 | 資源と産業 (資源・エネルギー) |
| | 11 | 人・モノ・金のつながり (交通・通信) |
| 7 | 12 | 人・モノ・金のつながり (貿易・観光) |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 人口、都市・村落 |
| 8 | 15 | 人口、都市・村落 |
| | 夏季休業 | |
| 9 | 16 | 人口、都市・村落 |
| | 17 | 人口、都市・村落 |
| | 18 | 文化と国家 (生活文化と言語・宗教) |
| | 19 | 文化と国家 (生活文化と言語・宗教) |
| 10 | 20 | 文化と国家 (国家とその領域) |
| | 21 | 文化と国家 (国家とその領域) |
| | 22 | 現代世界の諸地域 (東アジア) |
| | 23 | 現代世界の諸地域 (東南アジア) |
| | 24 | 現代世界の諸地域 (西アジアと北アフリカ) |
| | 25 | 現代世界の諸地域 (アフリカ) |
| 11 | 26 | 現代世界の諸地域 (ヨーロッパ) |
| | 27 | 後期中間考査 |
| | 28 | 現代世界の諸地域 (ヨーロッパ) |
| 12 | 29 | 現代世界の諸地域 (ロシア) |
| | 30 | 現代世界の諸地域 (南北アメリカ) |
| | 31 | 現代世界の諸地域 (南北アメリカ) |
| | 32 | 現代世界の諸地域 (オセアニア) |
| | 冬季休業 | |
| 1 | 33 | 現代世界の諸地域 (日本) |
| | 34 | 現代世界の諸地域 (日本) |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|--------|----------------|-------------|
| 地 歴 科 | 世界史探究・世界史特講 | 4 単位 + 2 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース【選抜 文系】 | |

<授業目標>

1. 世界史の学習を通じて、現代社会を生きていく上で必要不可欠な判断力・批判力を育て、適切な価値観を身につける。日本の歴史との違いや共通点を一掃深く理解する。
2. 大学入試問題（国公立二次・私立個別・共通テスト）に対処できる学力を養成する。

<授業内容>

1. 1年次の公共（2単位）、2年次の歴史総合及び地理総合（各2単位、計4単位）の知識を前提として、人類誕生から19世紀までの世界の歴史を学ぶ。諸地域の主要な歴史の流れと各地域の關係に着目する。
2. 2年次の歴史総合（2単位）では、近・現代の日本史と世界史を扱った。3年次（6単位）では、近世から現代の歴史（教科書後半部分）を学習する。
3. 授業形態は基本的に講義形式である。講義により世界史の基礎的事項を習得するとともに、歴史事象や流れを論理的にとらえられるようにすることを目的とする。
4. 生徒自身が歴史事象に疑問点を見つけ出し、それを自ら解決しようとする探求心を育成するため、発表・論述といった言語活動や視聴覚教材を活用した授業を多く取り入れていく。

<課外や他の授業との関連>

2年次では、歴史総合及び地理総合（各2単位）を必修科目として並行して履修した。3年次では世界史探究（4単位）を世界史特講（2単位）とともに継続して履修する。

課外授業（ゼミナール）については、受験科目としての必要性に応じて設定される。

<成績評価>

1. 定期考査・確認テスト・授業態度・ノートや課題の提出状況などを評価の対象とする。
2. 下記の3観点に基づき、総合的に評価を行う。
 - ①知識・技能 …定期考査・確認テスト等において、正確な解答を作成できているか。歴史的事象の原因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。論述において、論理的な表現ができているか。
 - ②思考・判断・表現 …授業中の教師との問答や論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決しようとする姿勢ができているか。
 - ③主体的に学習に取り組む態度 …授業中における講義を聴く態度、ノートへの記載の質、発問に対する回答を行う姿勢がしっかりできているか。

<学習到達度>

1. 定期考査では、70%以上の得点率を目標とする。
2. 模擬試験では、偏差値65以上を目標とする。

<使用教材>

| 使用教材 | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|----------|-------|
| 教 科 書 | 詳説世界史探究 | 山川出版 |
| 副 教 材 | アカデミア世界史 | 浜島書店 |

＜年間計画＞

| 月 | 週 | 授 業 内 容 |
|----|------|--|
| 4 | 1 | オリエンテーション 「文明の誕生」 「古代オリエン特文明」 (メソポタミア文明) |
| | 2 | 「古代オリエン特文明」 (エジプト文明、東地中海世界、オリエン特統一) |
| | 3 | 「南アジアの古代文明」 「中国の古代文明」 |
| 5 | 4 | 「南北アメリカ文明」 「中央ユーラシア」 「秦の統一」 |
| | 5 | 「漢帝国の繁栄」 「中国の動乱と変容」 (魏晋南北朝) |
| | 6 | 「東アジア文化圏の形成」 (隋唐帝国) |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 「仏教の成立と南アジア統一国家」 「インド古典文化とヒンドゥー教」 |
| | 9 | 「東南アジア世界の形成と展開」 「イラン諸国家の興亡とイラン文明」 |
| | 10 | 「ギリシア人の都市国家」 「ローマと地中海世界」 (共和政ローマ) |
| | 11 | 「ローマと地中海世界」 (帝政ローマ) 「キリスト教の成立と発展」 |
| | 12 | 「アラブの大征服とイスラーム政権の成立」 「イスラーム教の諸地域への伝播」 |
| 7 | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 「西アジアの動向」 「ヨーロッパ世界の形成」 |
| | 15 | 「西ヨーロッパ封建社会の展開」 |
| 8 | 夏季休業 | |
| | 16 | 「東ヨーロッパ世界の展開」 |
| 9 | 17 | 「西ヨーロッパ世界の変容」 (十字軍～封建社会の動揺) |
| | 18 | 「西ヨーロッパ世界の動揺」 (英・仏の中央集権化～神聖ローマ帝国の分裂) |
| | 19 | 「西ヨーロッパの中世文化」 「アジア諸地域の自立化と宋」 |
| | 20 | 「モンゴルの大帝国」 |
| 10 | 21 | 「アジア交易世界の興隆」 |
| | 22 | 「清代の中国と隣接諸地域」 |
| | 23 | 「オスマン帝国とサファヴィー朝」 「ムガル帝国の興隆」 |
| | 24 | 「ヨーロッパの海洋進出」 「ルネサンス」 「宗教改革」 |
| 11 | 25 | 「主権国家体制の成立」 |
| | 26 | 「産業革命」 「アメリカ合衆国の独立と発展」 |
| | 27 | 後期中間考査 |
| | 28 | 「フランス革命とナポレオン」 「ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動」 |
| | 29 | 「アメリカ合衆国の発展」 「西・南・東南アジア地域の変容」 |
| 12 | 30 | 「東アジアの激動」 「第2次産業革命と帝国主義」 |
| | 31 | 「列強の世界分割と列強体制の二分化」 「アジア・アフリカ地域の民族運動」 |
| | 32 | 入試対策 (共通テスト・私大個別) |
| | 冬季休業 | |
| 1 | 33 | 入試対策 (共通テスト・私大個別) |
| | 34 | 入試対策 (共通テスト・私大個別) 大学入学共通テスト |
| | 35 | 入試対策 (共通テスト・私大個別) |
| | 36 | 卒業考査 |

| | | |
|--------|-----------------|------|
| 地 歴 科 | 日本史探求 | 4 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース [選抜] 文系 | |

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。自ら疑問を持ち、調べ、考察し、答えを導き出す過程を通じて論理的思考力を育成するとともに、理解した内容を発表、論述する言語活動を通じて理解の深化をはかり、表現力を育成する。

<授業内容>

授業形態は基本的には講義形式である。講義により日本史の基礎的事項を理解させるとともに、歴史事象や因果関係を論理的にとらえさせる。生徒自身が歴史事象に疑問点を見つけ出し、それを自ら解決していくという探求心を育成するため、発表、論述といった言語活動を多彩に盛り込むことで平板な授業形式にならないように努めたい。特に近・現代史は、現代社会の成立に直結する時代であるがゆえに、受験用知識という位置づけにとどまらず、政治・経済・外交等多岐にわたる分野同士をしっかりと連結できる理解力を身に付けさせたい。12月まで授業実施予定であるが、早めに終了した時点で演習授業に入る。

<留意点>

- ・教科書、ノート、図表、史料集は授業、課外に関わらず常に所持していること。
- ・確認テストを欠席した場合は、後日2日間以内に受験しにくること。
- ・授業の中での理解、確認テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていくか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていくか。

<学習到達度>

模擬試験得点率50%を平常の目標とし、最終的にはセンター試験得点率70%を目指す。

<使用教材>

| 使用教材 | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-----------|-------|
| 教 科 書 | 詳説 日本史 | 山川出版社 |
| 副 教 材 | 詳説 日本史史料集 | 山川出版社 |
| | 新詳 日本史 | 浜島書店 |
| | 一問一答用語問題集 | 山川出版社 |

<年間計画>

| 月 | 週 | |
|----|----|---|
| 4 | 1 | 「日本列島と日本史」「旧石器時代人の生活」 |
| | 2 | 「縄文文化の成立」「弥生文化の成立」 |
| | 3 | 「小国の分立」「古墳の出現とヤマト政権」 |
| 5 | 4 | 「大陸文化の受容」「東アジアの動乱と大化改新」 |
| | 5 | 「律令国家への道」「大宝律令と官僚制」 |
| | 6 | 「遣唐使」「藤原氏の進出と政界の動揺」 |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 「天平文化」「平安初期の政治改革」 |
| | 9 | 「藤原氏北家の発展」「国際関係の変化」 |
| | 10 | 「国司の地方支配」「荘園の発達」 |
| | 11 | 「国風文化」「源氏の進出」「保元・平治の乱」 |
| 7 | 12 | 「源平の争乱」「幕府と朝廷」 |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 「承久の乱」「蒙古襲来」「鎌倉文化」 |
| 8 | 15 | 「室町幕府」「守護大名と国人一揆」「東アジアとの交易」 |
| | 16 | 夏季休業 |
| 9 | 17 | 「琉球と蝦夷ヶ島」「幕府の動揺と応仁の乱」 |
| | 18 | 「農業の発達」「室町文化」「戦国大名」 |
| | 19 | 「ヨーロッパ人の東アジア進出」「織田信長の統一事業」「豊臣秀吉の天下統一」 |
| | 20 | 「秀吉の対外政策と朝鮮侵略」「江戸幕府の成立」 |
| 10 | 21 | 「幕藩体制」「朝廷と寺社」「村と百姓」 |
| | 22 | 「初期の外交」「鎖国政策」「元禄時代」「諸産業の発達」 |
| | 23 | 「交通の整備」「田沼時代」「寛政の改革」 |
| | 24 | 「天保の改革」「政局の転換」「討幕運動の展開」 |
| 11 | 25 | 「地租改革」「殖産興業」「自由民権運動」 |
| | 26 | 「松方財政」「憲法の制定」「条約改正」 |
| | 27 | 「朝鮮問題」「日清戦争と三国干渉」「日露戦争」 |
| | 28 | 「第一次世界大戦」「パリ講和会議」 |
| 12 | 29 | 後期中間考査 |
| | 30 | 「満州事変」「日中戦争」「第二次世界大戦の勃発」「太平洋戦争のはじまり」 |
| | 31 | 「占領と改革の開始」「冷戦構造の世界」 |
| | 32 | 「安保政権の安定」「朝鮮特需と経済復興」「ドル＝ショック」 |
| 1 | 33 | 「5 5 年体制の崩壊」「バブル経済から平成不況へ」「経済危機の深まりと国内改革の急展開」 |
| | 34 | 冬季休業 |
| | 35 | 演習授業（共通テスト対策） |
| 1 | 34 | 演習授業（共通テスト対策） |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|--------|-----------------|------|
| 地 歴 科 | 日本史探究 | 4 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース [特進] 文系 | |

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。

総合型選抜等での学力試験や共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。

<授業内容>

古代～現代

講義を中心に、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を、要因を分析し、世界の歴史を背景に理解させていく。また、図表や史料などの歴史的資料を多面的・多角的に考察し読み解く技能を習得することや、言語活動を充実させるために、探求学習やプレゼンテーションの要素を多く取り入れた授業を実施する。

特に近・現代史は、現代社会の成立に直結する時代であるがゆえに、受験用知識という位置づけにとどまらず、政治・経済・外交等多岐にわたる分野同士をしっかりと連結できる理解力を身に付けさせたい。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

| 年次 | 授業or課外 | 内 容 | 期間or単位数 |
|-----|--------|-------------------|---------|
| 3年次 | 日本史特講 | 日本史探究と関連する講義および演習 | 1 単位 |

<留意点>

- ・教科書、ノート、図表、史料集は授業、課外に関わらず常に所持していること。
- ・配布されたプリント、実施したテストはファイル等に保管しておくこと。
- ・授業の中での理解、小テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりとできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていくか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていくか。

<学習到達度>

- ・定期考査および小テスト等の得点率80%以上を目標とし、最終的にはセンター試験をはじめとする入試レベルの問題での得点率60%以上を目指す。

<使用教材>

| 使用教材 | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-----------|-------|
| 教 科 書 | 高校日本史 改訂版 | 山川出版社 |
| 副 教 材 | 新詳日本史 | 浜島書店 |

<年間計画>

| 月 | 週 | |
|----|----|---------------------------------------|
| 4 | 1 | 「日本列島と日本史」「旧石器時代人の生活」 |
| | 2 | 「縄文文化の成立」「弥生文化の成立」 |
| | 3 | 「小国の分立」「古墳の出現とヤマト政権」 |
| 5 | 4 | 「大陸文化の受容」「東アジアの動乱と大化改新」 |
| | 5 | 「律令国家への道」「大宝律令と官僚制」 |
| | 6 | 「遣唐使」「藤原氏の進出と政界の動揺」 |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 「天平文化」「平安初期の政治改革」 |
| | 9 | 「藤原氏北家の発展」「国際関係の変化」 |
| | 10 | 「国司の地方支配」「荘園の発達」 |
| | 11 | 「国風文化」「源氏の進出」「保元・平治の乱」 |
| 7 | 12 | 「源平の争乱」「幕府と朝廷」 |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 「承久の乱」「蒙古襲来」「鎌倉文化」 |
| 8 | 15 | 「室町幕府」「守護大名と国人一揆」「東アジアとの交易」 |
| | 16 | 夏季休業 |
| 9 | 17 | 「琉球と蝦夷ヶ島」「幕府の動揺と応仁の乱」 |
| | 18 | 「農業の発達」「室町文化」「戦国大名」 |
| | 19 | 「ヨーロッパ人の東アジア進出」「織田信長の統一事業」「豊臣秀吉の天下統一」 |
| | 20 | 「秀吉の対外政策と朝鮮侵略」「江戸幕府の成立」 |
| 10 | 21 | 「幕藩体制」「朝廷と寺社」「村と百姓」 |
| | 22 | 「初期の外交」「鎖国政策」「元禄時代」「諸産業の発達」 |
| | 23 | 「交通の整備」「田沼時代」「寛政の改革」 |
| | 24 | 「天保の改革」「政局の転換」「討幕運動の展開」 |
| 11 | 25 | 「地租改革」「殖産興業」「自由民権運動」 |
| | 26 | 「松方財政」「憲法の制定」「条約改正」 |
| | 27 | 「朝鮮問題」「日清戦争と三国干渉」「日露戦争」 |
| | 28 | 「第一次世界大戦」「パリ講和会議」 |
| 12 | 29 | 後期中間考査 |
| | 30 | 「満州事変」「日中戦争」「第二次世界大戦の勃発」 |
| | 31 | 「太平洋戦争のはじまり」「占領と改革の開始」「冷戦構造の世界」 |
| | 32 | 「安保政権の安定」「朝鮮特需と経済復興」「ドル＝ショック」 |
| 1 | 33 | 「冷戦から内戦へ」 |
| | 34 | 冬季休業 |
| | 35 | 「55年体制の崩壊」「バブル経済から平成不況へ」 |
| 1 | 36 | 「経済危機の深まりと国内改革の急展開」 |
| | 37 | 卒業考査 |

| | | |
|--------|-----------------|------|
| 地 歴 科 | 日本史特講 | 2 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース [選抜] 文系 | |

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。自ら疑問を持ち、調べ、考察し、答えを導き出す過程を通じて論理的思考力を育成するとともに、理解した内容を発表、論述する言語活動を通じて理解の深化をはかり、表現力を育成する。

<授業内容>

日本史探究と日本史特講の履修者が同じであるため、この時間においても授業を実施することとする。内容は室町時代から現代に至るまでの文化史、並びに演習を予定している。但し、授業担当教員によっては日本史探究で予定している近世史を実施する場合もある。演習は確認小テストとセンター試験過去問題と大学共通テスト過去問題を実施していくが、全範囲が終了した時点から開始していく。繰り返し古代から現代までの問題を解くことで解法パターンをしっかりと身につけて欲しい。

<課外や他の授業との関連>

本授業と関係する授業は以下の通りである。

| 年次 | 授業or課外 | 内 容 | 期間or単位数 |
|-----|--------|-------------|---------|
| 3年次 | 日本史探究 | 古代～現代までの日本史 | 4 単位 |

<留意点>

- ・教科書、ノート、図表、史料集は授業、課外に関わらず常に所持していること。
- ・授業の中での理解、確認テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。
- ・演習はマークシートを利用するため、正確な記入に細心の注意を払うこと。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていないか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていないか。

<学習到達度>

模擬試験得点率50%を平常の目標とし、最終的には共通テスト得点率70%を目指す。

<使用教材>

| 使用教材 | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-----------|-------|
| 教 科 書 | 詳説 日本史 | 山川出版社 |
| 副 教 材 | 詳説 日本史史料集 | 山川出版社 |
| | 新詳 日本史 | 浜島書店 |
| | 一問一答用語問題集 | 山川出版社 |

<年間計画>

| 月 | 週 | |
|----|----|---|
| 4 | 1 | 「日本列島と日本史」「旧石器時代人の生活」 |
| | 2 | 「縄文文化の成立」「弥生文化の成立」 |
| | 3 | 「小国の分立」「古墳の出現とヤマト政権」 |
| 5 | 4 | 「大陸文化の受容」「東アジアの動乱と大化改新」 |
| | 5 | 「律令国家への道」「大宝律令と官僚制」 |
| | 6 | 「遣唐使」「藤原氏の進出と政界の動揺」 |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 「天平文化」「平安初期の政治改革」 |
| | 9 | 「藤原氏北家の発展」「国際関係の変化」 |
| | 10 | 「国司の地方支配」「荘園の発達」 |
| | 11 | 「国風文化」「源氏の進出」「保元・平治の乱」 |
| 7 | 12 | 「源平の争乱」「幕府と朝廷」 |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 「承久の乱」「蒙古襲来」「鎌倉文化」 |
| 8 | 15 | 「室町幕府」「守護大名と国人一揆」「東アジアとの交易」 |
| | 16 | 夏季休業 |
| 9 | 17 | 「琉球と蝦夷ヶ島」「幕府の動揺と応仁の乱」 |
| | 18 | 「農業の発達」「室町文化」「戦国大名」 |
| | 19 | 「ヨーロッパ人の東アジア進出」「織田信長の統一事業」「豊臣秀吉の天下統一」 |
| | 20 | 「秀吉の対外政策と朝鮮侵略」「江戸幕府の成立」 |
| 10 | 21 | 「幕藩体制」「朝廷と寺社」「村と百姓」 |
| | 22 | 「初期の外交」「鎖国政策」「元禄時代」「諸産業の発達」 |
| | 23 | 「交通の整備」「田沼時代」「寛政の改革」 |
| | 24 | 「天保の改革」「政局の転換」「討幕運動の展開」 |
| 11 | 25 | 「地租改革」「殖産興業」「自由民権運動」 |
| | 26 | 「松方財政」「憲法の制定」「条約改正」 |
| | 27 | 「朝鮮問題」「日清戦争と三国干渉」「日露戦争」 |
| | 28 | 「第一次世界大戦」「パリ講和会議」 |
| 12 | 29 | 後期中間考査 |
| | 30 | 「満州事変」「日中戦争」「第二次世界大戦の勃発」「太平洋戦争のはじまり」 |
| | 31 | 「占領と改革の開始」「冷戦構造の世界」 |
| | 32 | 「安保政権の安定」「朝鮮特需と経済復興」「ドル＝ショック」 |
| 1 | 33 | 「5 5 年体制の崩壊」「バブル経済から平成不況へ」「経済危機の深まりと国内改革の急展開」 |
| | 34 | 冬季休業 |
| | 35 | 演習授業（共通テスト対策） |
| 1 | 34 | 演習授業（共通テスト対策） |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|--------|-----------------|------|
| 地 歴 科 | 日本史特講 | 2 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース [特進] 文系 | |

<授業目標>

日本史の学習を通じて現代社会に対する適正な判断力・批判力を育成し、バランスのとれたより良い価値観を身に付けさせる。

総合型選抜等での学力試験や共通テストを主眼とした大学入試問題に対応できる実力を養成する。

<授業内容>

日本史探究と日本史特講の履修者が同じであるため、この時間においても日本史Bの授業内容を継続させることを基本とする。また、知識の定着を図るため、プリント等を利用した問題演習や、言語活動の充実を目的とした探求学習やプレゼンテーション等の授業を実施することとする。

日本史探究の講義において身につけた日本史の基礎的事項を、演習等によってより深く理解させるとともに、歴史事象や流れを論理的にとらえていく。

<課外や他の授業との関連>

本授業で扱う内容以外については、以下の要領で3年次修了まで実施する。

| 年次 | 授業or課外 | 内 容 | 期間or単位数 |
|-----|--------|---------------|---------|
| 3年次 | 日本史探究 | 古代～中世史及び近・現代史 | 4 単位 |

<留意点>

- ・教科書、ノート、図表、史料集は授業、課外に関わらず常に所持していること。
- ・配布されたプリント、実施したテストはファイル等に保管しておくこと。
- ・授業の中での理解、小テストを通じての定着を常に意識していること。それが最も効率的、かつ有効な学習方法であり、他教科の学習時間を確保するものである。

<成績評価>

下記の3観点に基づき総合的に評価をする。

- ・主体的学習に取り組む態度・・・授業中における聴講の姿勢、ノートへの記載の量と質、発問に対する回答の姿勢がしっかりできているか。
- ・思考、判断、表現・・・・・・・・・・授業中の教師との問答、論述の表現の中で、自ら疑問点を見つけ出し、自ら解決していこうとする姿勢ができていないか。
- ・知識・技能・・・・・・・・・・定期考査、小テスト等において正確な解答を作成することができているか。歴史的事象の要因とその意義（原因→事象→影響）が常に意識できているか。発表、論述で論理的な表現ができていないか。

<学習到達度>

定期考査および小テスト等の得点率80%以上を目標とし、最終的にはセンター試験をはじめとする入試レベルの問題での得点率60%以上を目指す。

<使用教材>

| 使用教材 | 書 名 | 発 行 所 |
|-------|-----------|-------|
| 教 科 書 | 高校日本史 改訂版 | 山川出版社 |
| 副 教 材 | 新詳日本史 | 浜島書店 |

<年間計画>

| 月 | 週 | |
|----|----|---------------------------------------|
| 4 | 1 | 「日本列島と日本史」「旧石器時代人の生活」 |
| | 2 | 「縄文文化の成立」「弥生文化の成立」 |
| | 3 | 「小国の分立」「古墳の出現とヤマト政権」 |
| 5 | 4 | 「大陸文化の受容」「東アジアの動乱と大化改新」 |
| | 5 | 「律令国家への道」「大宝律令と官僚制」 |
| | 6 | 「遣唐使」「藤原氏の進出と政界の動揺」 |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | 「天平文化」「平安初期の政治改革」 |
| | 9 | 「藤原氏北家の発展」「国際関係の変化」 |
| | 10 | 「国司の地方支配」「荘園の発達」 |
| | 11 | 「国風文化」「源氏の進出」「保元・平治の乱」 |
| 7 | 12 | 「源平の争乱」「幕府と朝廷」 |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 「承久の乱」「蒙古襲来」「鎌倉文化」 |
| 8 | 15 | 「室町幕府」「守護大名と国人一揆」「東アジアとの交易」 |
| | 16 | 夏季休業 |
| 9 | 17 | 「琉球と蝦夷ヶ島」「幕府の動揺と応仁の乱」 |
| | 18 | 「農業の発達」「室町文化」「戦国大名」 |
| | 19 | 「ヨーロッパ人の東アジア進出」「織田信長の統一事業」「豊臣秀吉の天下統一」 |
| | 20 | 「秀吉の対外政策と朝鮮侵略」「江戸幕府の成立」 |
| 10 | 21 | 「幕藩体制」「朝廷と寺社」「村と百姓」 |
| | 22 | 「初期の外交」「鎖国政策」「元禄時代」「諸産業の発達」 |
| | 23 | 「交通の整備」「田沼時代」「寛政の改革」 |
| | 24 | 「天保の改革」「政局の転換」「討幕運動の展開」 |
| 11 | 25 | 「地租改革」「殖産興業」「自由民権運動」 |
| | 26 | 「松方財政」「憲法の制定」「条約改正」 |
| | 27 | 「朝鮮問題」「日清戦争と三国干渉」「日露戦争」 |
| | 28 | 後期中間考査 |
| 12 | 29 | 「満州事変」「日中戦争」「第二次世界大戦の勃発」 |
| | 30 | 「太平洋戦争のはじまり」「占領と改革の開始」「冷戦構造の世界」 |
| | 31 | 「安保政権の安定」「朝鮮特需と経済復興」「ドル＝ショック」 |
| | 32 | 「冷戦から内戦へ」 |
| 1 | 33 | 冬季休業 |
| | 34 | 「55年体制の崩壊」「バブル経済から平成不況へ」 |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|------|-------------------|-----|
| 数学科 | 数学Ⅲ(4単位)・数学C(3単位) | 7単位 |
| 第3学年 | 普通科 特進文理コース(理系) | |

(授業目標)

- ・理系進学で必要とされている基本事項と教科書との関連を十分に理解する。
- ・精選された練習問題を通して、解法や発展事項を十分に理解する。また、融合問題に取り組み理系大学に合格できる能力の育成を図る。

(授業内容)

- ・問題の解法を詳しく解説すると共に、類似・発展的な問題も導入し、数学的思考能力を育てる授業を展開する。
- ・副教材・入試問題の演習を通して、ひとつひとつの基本事項がどのように出題されるかを理解させるだけでなく、解答を得るまでの時間を短縮させる技術を習得させる。

(成績評価)

- ・考査はコース毎に共通問題とする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考査成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に評価する。
- ・話し合い活動の中で、既習事項を活用して自らの考えを深め、考察し発表する過程を総合的に評価する。

評価のポイント

〈関心・意欲・態度〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見る。

〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考査等で見る。

〈数学的な技能〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考査で見る。

〈知識・理解〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考査等で見る。

(使用教材)

| 使用教材 | 書名 | 発行所 |
|------|----|-----|
|------|----|-----|

| | | |
|-----|-------------|-------|
| 教科書 | 新編 数学Ⅲ, C | 第一学習社 |
| 副教材 | スタディ 数学Ⅲ, C | 第一学習社 |

(3年間の履修展開)

| 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 |
|---------|---------|---------|
| 数学Ⅰ (3) | 数学Ⅱ (3) | 数学Ⅲ (4) |
| 数学A (2) | 数学B (2) | 数学C (3) |

(学習方法)

- 本質的な理解とは
 数学の勉強では、必ずしも、「理解できる」と「解ける」は一致しない。そのため、何となくわかるのではなく、より深く理解することが必要となる。毎日の学習の中に、副教材を取り入れ、言われてやるのではなく自ら学習する習慣をつけよう。
- 模擬試験対策
 定期的に行われる模擬試験対策には、基本問題の演習や過去問題に取り組む必要がある。
 また、数学は論理だけではなく、計算によって解を導くため、相応の計算力が必要条件となる。頻出問題を繰り返し解き、解答パターンを暗記することで成績向上につなげよう。
- 試験の結果の活用をしよう。
 定期的実施される模擬試験は結果だけでなく、自己の課題として、今後に活用しよう。
 苦手な単元を明らかにして、復習に力を入れることで実力を伸ばし、入試対策に取り組んでいこう。

(数学Ⅲ)

| 月 | 単元名 | 授業内容 |
|---------|-----------|--|
| 4 | 第1章 関数と極限 | 分数関数、無理関数 逆関数、合成関数 数列の収束・発散 |
| 5 | | 極限の性質 等比数列の極限 無限等比級数 |
| 前期中間考査 | | |
| 6 | | 関数の極限 いろいろな関数の極限 関数の連続性 |
| 前期期末考査 | | |
| 7 | 第2章 微分法 | 微分係数、導関数の計算 合成関数、逆関数の微分法 三角関数、指数関数、対数関数の導関数 高次導関数 曲線の方程式と導関数 |
| 夏期休業中課外 | | 数学Ⅲの既習内容 |
| 9 | | 接線、法線 関数の増減と極大、極小 |
| 10 | | 曲線の凹凸と関数のグラフ 第2次導関数と極値 関数の最大、最小 方程式、不等式への応用 |
| 11 | 第3章 積分法 | 不定積分 置換積分法、部分積分法 いろいろな関数の不定積分 |
| 後期中間考査 | | |
| 12 | | 定積分 定積分の置換積分法、部分積分法 問題演習 |
| 冬季休業中課外 | | 数学Ⅲの既習内容 |
| 1 | | 面積、体積 |
| 卒業考査 | | |

| 月 | 単元名 | 授業内容 |
|------------------|------------------|-----------------------|
| 4 | 第1章 ベクトル | 平面上のベクトル、ベクトルの演算 |
| | | 平面ベクトルの成分, 内積 |
| 5 | | 平面上の位置ベクトル |
| | | ベクトル方程式 |
| 前期中間考査 | | |
| 6 | | 空間の基本図形、空間の座標 |
| | | 空間ベクトルの成分, 内積, 位置ベクトル |
| 前期期末考査 | | |
| 7 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 複素数平面 |
| | | 複素数の極形式 |
| 夏期休業中課外 数学Cの既習内容 | | |
| 9 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 複素数と図形 |
| | | ド・モアブルの定理 |
| 10 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 放物線、楕円、双曲線 |
| 11 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 2次曲線の平行移動 |
| | | 2次曲線と直線 |
| 後期中間考査 | | |
| 12 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 2次曲線の接線の方程式 |
| | | 曲線の媒介変数表示 |
| 冬季休業中課外 | | |
| 1 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 極座標と極方程式 |
| | 総合演習Ⅲ | 複素数平面、式と曲線 |
| 卒業考査 | | |

| | | |
|-----|-----------------------|-----|
| 数学科 | 数学Ⅱ (2単位) , 数学C (3単位) | 5単位 |
|-----|-----------------------|-----|

(授業目標)

- ・基本問題の反復練習を通して、基本的な項目の理解を深めるとともに、問題解決能力の育成をはかる。
- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。
- ・数学的な見方や考え方の良さを通して、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用する態度を育てる。

(授業内容)

- ・問題の解法を詳しく解説すると共に、類似・発展的な問題も導入し、数学的思考能力を育てる授業を展開する。
- ・副教材・入試問題の演習を通して、ひとつひとつの基本事項がどのように出題されるかを理解させるだけでなく、解答を得るまでの時間を短縮させる技術を習得させる。

(成績評価)

- ・考查はコース毎に共通問題とする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考查成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に評価する。
- ・話し合い活動の中で、既習事項を活用して自らの考えを深め、考察し発表する過程を総合的に評価する。

評価のポイント

〈関心・意欲・態度〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、三角関数、指数関数と対数関数、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見える。

〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、三角関数、指数関数と対数関数、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考查等で見える。

〈数学的な技能〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、三角関数、指数関数と対数関数、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考查で見える。

〈知識・理解〉

平面上の曲線と複素数平面、ベクトル、三角関数、指数関数と対数関数、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考查等で見える。

(使用教材)

| | | |
|------|-----------|-------|
| 使用教材 | 書名 | 発行所 |
| 教科書 | 新編数学II, C | 第一学習社 |

| | | |
|-----|------------------|-------|
| 副教材 | ネオパル数学Ⅱ, スタディ数学C | 第一学習社 |
|-----|------------------|-------|

(3年間の履修展開)

| 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 |
|---------|---------|---------|
| 数学Ⅰ (3) | 数学Ⅱ (3) | 数学Ⅱ (2) |
| 数学A (2) | 数学B (2) | 数学C (3) |

(学習方法)

- ① 高校の授業内容は、「早く・多く・難しい」ということを自覚する。
 - ・中学までは予習などしなくても、授業がわかるケースが多かったのは、授業の展開がゆっくりで覚える内容も少なかったからである。高校で中学とのギャップを感じるだろうが、授業に臨むうえでやはり最低限度の予習をし、予備知識を蓄えておくことが必要となってくる。これは授業を大切にするためにどうしても必要である。
- ② 「受身の姿勢」でなく、自らが積極的に取り組むこと。
 - ・授業においては、黒板で説明を受けただけで出来るようになったと錯覚しがちである。しかし、それは解答の仕方が書いてあるからであって、実際に問題を解くうえでなかなか解答に結びつかない場合が多いのが現状である。その現状を打破し数学が出来るようになるためには、やはり家庭学習における反復練習が必要である。つまり、学習効率を高めるためには、復習が大切な要素となりうる。
- ③ 学校生活と進学の両立のために「今」を大切にする。
 - ・わからない問題でも簡単に諦めてはいけない。解けない問題を解こうとするプロセスが大切であり、日々の積み重ねが両立を支える手段である。学習の基本は授業である。常に真剣に取り組むことで、充実した高校生活を過ごそう。

(数学Ⅱ)

| 月 | 単元名 | 授業内容 |
|---|-----|------|
|---|-----|------|

| | | |
|------------------|-------------------|---|
| 4 | 第4章 三角関数 | 一般角と弧度、三角関数 |
| 5 | | 三角関数の性質、三角関数のグラフ |
| | | 三角関数の応用 |
| 前期中間考査 | | |
| 6 | | 加法定理、加法定理の応用 |
| 前期期末考査 | | |
| 7 | | $a\sin\theta + b\cos\theta$ の変形 |
| 夏期休業中課外 数学Ⅱの既習内容 | | |
| 9 | 第5章 指数関数と 対数関数 | 指数の拡張 指数関数 |
| 10 | | 対数とその性質 対数関数、常用対数 |
| 11 | 第6章 微分法・積分法 | 微分係数、導関数 接線 |
| 後期中間考査 | | |
| 12 | | 関数の増減と極大・極小 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式、不定積分 |
| 冬季休業中課外 | | |
| 1 | | 定積分、面積 |
| 卒業考査 | | |

(数学C)

| 月 | 単元名 | 授業内容 |
|------------------|------------------|-----------------------|
| 4 | 第1章 ベクトル | 平面上のベクトル、ベクトルの演算 |
| | | 平面ベクトルの成分, 内積 |
| 5 | | 平面上の位置ベクトル |
| | | ベクトル方程式 |
| 前期中間考査 | | |
| 6 | | 空間の基本図形、空間の座標 |
| | | 空間ベクトルの成分, 内積, 位置ベクトル |
| 前期期末考査 | | |
| 7 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 複素数平面 |
| | | 複素数の極形式 |
| 夏期休業中課外 数学Cの既習内容 | | |
| 9 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 複素数と図形 |
| | | ド・モアブルの定理 |
| 10 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 放物線、楕円、双曲線 |
| 11 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 2次曲線の平行移動 |
| | | 2次曲線と直線 |
| 後期中間考査 | | |
| 12 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 2次曲線の接線の方程式 |
| | | 曲線の媒介変数表示 |
| 冬季休業中課外 | | |
| 1 | 第2章 平面上の曲線と複素数平面 | 極座標と極方程式 |
| | 総合演習 | 複素数平面、式と曲線 |
| 卒業考査 | | |

| | | |
|------|--------------------|------|
| 理 科 | 物 理 | 3 単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース 選抜クラス (理系) | |

【授業目標】

- (1) 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
- (2) 物理の基本的な概念や原理・法則を、数式を使って定性的及び定量的に事物・現象を把握できる能力を身につける。
- (3) 大学入試共通テスト、国公立大理工系学部二次・私立大理工系学部受験のための基礎力を身につける。
- (4) 模擬試験コース内平均偏差値 50 を目指す。

【授業内容】

- (1) 運動，エネルギー，波動，電気，原子についての基本的な概念や原理・法則について考える。
- (2) 授業は、理解を容易にするため図解や記号・数式による解説が多い。したがって、数学的な基礎知識が必要であり、図解や記号・数式を活用して物理的な事物・現象を理解できるようにすることが重要である。また、グループ実験，個人実験，演示実験が行われるが、実験を通して物理の基本的な概念や原理・法則の理解をより深めることも重要である。
- (3) 学習方法として、まず物理の基本的な概念や原理・法則を整理する。そして、それらを様々な物理的な事物・現象にあてはめ、論理的に解釈し、理解できる応用力を身につける。それによって、物理的な事物・現象は、基本的な概念や原理・法則の組み合わせである物理の本質が理解できるようにする。

【到達度】

定期考査の他に、確認テストを実施する。テストにおいて概ね 80%以上の得点が到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】

2年：物理基礎

3年：物—理 →

【入試科目への対応】

物理は、国公立・私立大学理工系への進学希望者には必須であり、履修する必要がある。

【成績評価】

成績評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階で評定する。また、定期考査についても、「3観点」に基づく問題を出題する。

「3観点」①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

【使用教材】

| 教材名 | 書 名 | 発 行 所 |
|-----|--------------|-------|
| 教科書 | 物理 | 実教出版 |
| 副教材 | アクセスノート物理改訂版 | 実教出版 |
| 副教材 | フォトサイエンス物理図録 | 数研出版 |

＜年間授業計画＞ 物理 (R6 3年特進文理 (選抜・理系))

実験・探求を通して3観点 (①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習の取組(態度)) 評価を行う

| 月 | 学習単元 | 学習内容 | 学習のねらい | |
|------------------------|------------------------------------|--|---|--|
| 前 期 | 4 | 1章 さまざまな物動 第1節 平面内の運動と剛体のつりあい 観点別評価 | ①運動の表し方 ②重力による運動 ③剛体に働く力 放物運動の観察 | ・速度の合成と分解, 相対速度について理解する。 ・水平投射, 斜方投射について理解する。 ・力のモーメントについて理解する。 ・水の入ったペットボトルを利用し, 水滴投射により放物線の軌道を確認する。 |
| | 5 | 第2節 運動量の保存 | ①運動量と力積 ②運動量の保存 ③衝突とエネルギー | ・運動量と力積の関係を知り, 単位系まで理解する。 ・運動量の保存について理解する。 ・物体の衝突について実験をし, エネルギー量の変化について理解する。 |
| | 前期中間考査 | | | |
| | 6 | 第3節 円運動と単振動 観点別評価 | ①運動の相対性と慣性力 ②等速円運動 ③単振動 ばね振り子の実験 | ・円運動の物理量について理解し, 単位系についても注意を払いながら計算問題が解けるようになる。 ・単振動について理解する。 ・フックの法則を確認し, おもりの質量を変化させることにより, 周期Tの法則性を検証させる。 |
| | 前期期末考査 | | | |
| | 7 | 第4節 万有引力 | ①ケプラーの法則 ②万有引力の法則 ③万有引力を受ける物体の運動 | ・重要法則について理解する。 ・2物体間に働く力について理解する。 ・人工衛星の運動について理解する。 |
| 夏季休業課題: ポート提出「円運動・単振動」 | | | | |
| 9 | 2章 波 第1節 波の伝わり方 観点別評価 | ①波の表し方 ②波の干渉 ③波の伝わり方 水面波の観察 | ・波を表す基本形について理解する。 ・干渉とは何か, 理解する。 ・波の起こすさまざまな現象を理解する。 ・波の屈折を観察し, 波の性質を理解する。 | |
| 後 期 | 10 | 第2節 音 | ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 | ・音波の性質や現象を理解する。 ・ドップラー効果とは何か, 日常生活にも配慮し理解する。 |
| | 11 | 第3節 光 | ①光の伝わり方 ②レンズの球面鏡 ③光の分散・散乱・偏光 | ・光の速さと光のさまざまな現象を理解する。 ・レンズの性質について理解する。 ・光の現象を観察及び実験により理解する。 |
| | 後期中間考査 | | | |
| | 12 | 3章 電気と磁気 第1節 電荷と電場 観点別評価 | ①静電気 ②電場 ③電位と電位差 ④電場中の導体 ⑤コンデンサー ⑥電気回路 コンデンサーの充電/放電 | ・電気とは, 何かを理解する。 ・電場の表し方を理解する。 ・電位と電場の関係を理解する。 ・導体がどのようになるかを理解する。 ・コンデンサーの役割を理解する。 ・電流の流れの規則性を理解する。 ・コンデンサーを利用し, 電化製品を活用し電気エネルギーの性質を理解する。 |
| | 冬季休業課題: ポート提出「波」 | | | |
| 1 | | 入試対策問題演習 | ・問題演習 | |
| 卒業考査 | | | | |

| | | |
|------|--------------|------|
| 理 科 | 物 理 | 3 単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース (理系) | |

【授業目標】

- (1) 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
- (2) 物理の基本的な概念や原理・法則を、数式を使って定性的及び定量的に事物・現象を把握できる能力を身につける。
- (3) 大学入試共通テスト、国公立大理工系学部二次・私立大理工系学部受験のための基礎力を身につける。
- (4) 模擬試験コース内平均偏差値 50 を目指す。

【授業内容】

- (1) 運動，エネルギー，波動，電気，原子についての基本的な概念や原理・法則について考える。
- (2) 授業は、理解を容易にするため図解や記号・数式による解説が多い。したがって、数学的な基礎知識が必要であり、図解や記号・数式を活用して物理的な事物・現象を理解できるようにすることが重要である。また、グループ実験，個人実験，演示実験が行われるが、実験を通して物理の基本的な概念や原理・法則の理解をより深めることも重要である。
- (3) 学習方法として、まず物理の基本的な概念や原理・法則を整理する。そして、それらを様々な物理的な事物・現象にあてはめ、論理的に解釈し、理解できる応用力を身につける。それによって、物理的な事物・現象は、基本的な概念や原理・法則の組み合わせである物理の本質が理解できるようにする。

【到達度】

定期考査の他に、確認テストを実施する。テストにおいて概ね 80%以上の得点が到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】

2年：物理基礎

3年：物 理 →

【入試科目への対応】

物理は、国公立・私立大学理工系への進学希望者には必須であり、履修する必要がある。

【成績評価】

成績評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階で評定する。また、定期考査についても、「3観点」に基づく問題を出題する。

「3観点」①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

【使用教材】

| 教材名 | 書 名 | 発 行 所 |
|-----|--------------|-------|
| 教科書 | 物理 | 実教出版 |
| 副教材 | アクセスノート物理改訂版 | 実教出版 |
| 副教材 | フォトサイエンス物理図録 | 数研出版 |

＜年間授業計画＞ 物理 (R6 3年特進文理 (理系))

実験・探求を通して3観点 (①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習の取組(態度)) 評価を行う

| 月 | 学習単元 | 学習内容 | 学習のねらい | |
|------------------------|------------------------------------|--|---|--|
| 前 期 | 4 | 1章 さまざまな物動 第1節 平面内の運動と剛体のつりあい 観点別評価 | ①運動の表し方 ②重力による運動 ③剛体に働く力 放物運動の観察 | ・速度の合成と分解, 相対速度について理解する。 ・水平投射, 斜方投射について理解する。 ・力のモーメントについて理解する。 ・水の入ったペットボトルを利用し, 水滴投射により放物線の軌道を確認する。 |
| | 5 | 第2節 運動量の保存 | ①運動量と力積 ②運動量の保存 ③衝突とエネルギー | ・運動量と力積の関係を知り, 単位系まで理解する。 ・運動量の保存について理解する。 ・物体の衝突について実験をし, エネルギー量の変化について理解する。 |
| | 前期中間考査 | | | |
| | 6 | 第3節 円運動と単振動 観点別評価 | ①運動の相対性と慣性力 ②等速円運動 ③単振動 ばね振り子の実験 | ・円運動の物理量について理解し, 単位系についても注意を払いながら計算問題が解けるようになる。 ・単振動について理解する。 ・フックの法則を確認し, おもりの質量を変化させることにより, 周期Tの法則性を検証させる。 |
| | 前期期末考査 | | | |
| | 7 | 第4節 万有引力 | ①ケプラーの法則 ②万有引力の法則 ③万有引力を受ける物体の運動 | ・重要法則について理解する。 ・2物体間に働く力について理解する。 ・人工衛星の運動について理解する。 |
| 夏季休業課題: ポート提出「円運動・単振動」 | | | | |
| 9 | 2章 波 第1節 波の伝わり方 観点別評価 | ①波の表し方 ②波の干渉 ③波の伝わり方 水面波の観察 | ・波を表す基本形について理解する。 ・干渉とは何か, 理解する。 ・波の起こすさまざまな現象を理解する。 ・波の屈折を観察し, 波の性質を理解する。 | |
| 後 期 | 10 | 第2節 音 | ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 | ・音波の性質や現象を理解する。 ・ドップラー効果とは何か, 日常生活にも配慮し理解する。 |
| | 11 | 第3節 光 | ①光の伝わり方 ②レンズの球面鏡 ③光の分散・散乱・偏光 | ・光の速さと光のさまざまな現象を理解する。 ・レンズの性質について理解する。 ・光の現象を観察及び実験により理解する。 |
| | 後期中間考査 | | | |
| | 12 | 3章 電気と磁気 第1節 電荷と電場 観点別評価 | ①静電気 ②電場 ③電位と電位差 ④電場中の導体 ⑤コンデンサー ⑥電気回路 コンデンサーの充電/放電 | ・電気とは, 何かを理解する。 ・電場の表し方を理解する。 ・電位と電場の関係を理解する。 ・導体がどのようになるかを理解する。 ・コンデンサーの役割を理解する。 ・電流の流れの規則性を理解する。 ・コンデンサーを利用し, 電化製品を活用し電気エネルギーの性質を理解する。 |
| 冬季休業課題: ポート提出「波」 | | | | |
| 1 | | 入試対策問題演習 | ・問題演習 | |
| 卒業考査 | | | | |

| | | |
|------|--------------|------|
| 理 科 | 物 理 | 3 単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース (理系) | |

[授業目標]

- (1) 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
- (2) 物理の基本的な概念や原理・法則を、数式を使って定性的及び定量的に事物・現象を把握できる能力を身につける。
- (3) 大学入試共通テスト、国公立大理工系学部二次・私立大理工系学部受験のための基礎力を身につける。
- (4) 模擬試験コース内平均偏差値 50 を目指す。

[授業内容]

- (1) 運動，エネルギー，波動，電気，原子についての基本的な概念や原理・法則について考える。
- (2) 授業は、理解を容易にするため図解や記号・数式による解説が多い。したがって、数学的な基礎知識が必要であり、図解や記号・数式を活用して物理的な事物・現象を理解できるようにすることが重要である。また、グループ実験，個人実験，演示実験が行われるが、実験を通して物理の基本的な概念や原理・法則の理解をより深めることも重要である。
- (3) 学習方法として、まず物理の基本的な概念や原理・法則を整理する。そして、それらを様々な物理的な事物・現象にあてはめ、論理的に解釈し、理解できる応用力を身につける。それによって、物理的な事物・現象は、基本的な概念や原理・法則の組み合わせである物理の本質が理解できるようにする。

[到達度]

定期考査の他に、確認テストを実施する。テストにおいて概ね 80%以上の得点が到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

[3年間の履修展開]



[入試科目への対応]

物理は、国公立・私立大学理工系への進学希望者には必須であり、履修する必要がある。

[成績評価]

成績評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階で評定する。また、定期考査についても、「3観点」に基づく問題を出題する。

「3観点」①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

[使用教材]

| 教材名 | 書 名 | 発 行 所 |
|-----|--------------|-------|
| 教科書 | 物理 | 実教出版 |
| 副教材 | アクセスノート物理改訂版 | 実教出版 |
| 副教材 | フォトサイエンス物理図録 | 数研出版 |

＜年間授業計画＞ 物理 (R6 3年特進文理 (理系))

実験・探求を通して3観点 (①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習の取組(態度)) 評価を行う

| 月 | 学習単元 | 学習内容 | 学習のねらい | |
|------------------------|------------------------------------|--|---|--|
| 前 期 | 4 | 1章 さまざまな物動 第1節 平面内の運動と剛体のつりあい 観点別評価 | ①運動の表し方 ②重力による運動 ③剛体に働く力 放物運動の観察 | ・速度の合成と分解, 相対速度について理解する。 ・水平投射, 斜方投射について理解する。 ・力のモーメントについて理解する。 ・水の入ったペットボトルを利用し, 水滴投射により放物線の軌道を確認する。 |
| | 5 | 第2節 運動量の保存 | ①運動量と力積 ②運動量の保存 ③衝突とエネルギー | ・運動量と力積の関係を知り, 単位系まで理解する。 ・運動量の保存について理解する。 ・物体の衝突について実験をし, エネルギー量の変化について理解する。 |
| | 前期中間考査 | | | |
| | 6 | 第3節 円運動と単振動 観点別評価 | ①運動の相対性と慣性力 ②等速円運動 ③単振動 ばね振り子の実験 | ・円運動の物理量について理解し, 単位系についても注意を払いながら計算問題が解けるようにする。 ・単振動について理解する。 ・フックの法則を確認し, おもりの質量を変化させることにより, 周期Tの法則性を検証させる。 |
| | 前期期末考査 | | | |
| | 7 | 第4節 万有引力 | ①ケプラーの法則 ②万有引力の法則 ③万有引力を受ける物体の運動 | ・重要法則について理解する。 ・2物体間に働く力について理解する。 ・人工衛星の運動について理解する。 |
| 夏季休業課題: ポート提出「円運動・単振動」 | | | | |
| 9 | 2章 波 第1節 波の伝わり方 観点別評価 | ①波の表し方 ②波の干渉 ③波の伝わり方 水面波の観察 | ・波を表す基本形について理解する。 ・干渉とは何か, 理解する。 ・波の起こすさまざまな現象を理解する。 ・波の屈折を観察し, 波の性質を理解する。 | |
| 後 期 | 10 | 第2節 音 | ①音の伝わり方 ②ドップラー効果 | ・音波の性質や現象を理解する。 ・ドップラー効果とは何か, 日常生活にも配慮し理解する。 |
| | 11 | 第3節 光 | ①光の伝わり方 ②レンズの球面鏡 ③光の分散・散乱・偏光 | ・光の速さと光のさまざまな現象を理解する。 ・レンズの性質について理解する。 ・光の現象を観察及び実験により理解する。 |
| | 後期中間考査 | | | |
| | 12 | 3章 電気と磁気 第1節 電荷と電場 観点別評価 | ①静電気 ②電場 ③電位と電位差 ④電場中の導体 ⑤コンデンサー ⑥電気回路 コンデンサーの充電/放電 | ・電気とは, 何かを理解する。 ・電場の表し方を理解する。 ・電位と電場の関係を理解する。 ・導体がどのようになるかを理解する。 ・コンデンサーの役割を理解する。 ・電流の流れの規則性を理解する。 ・コンデンサーを利用し, 電化製品を活用し電気エネルギーの性質を理解する。 |
| | 冬季休業課題: ポート提出「波」 | | | |
| 1 | | 入試対策問題演習 | ・問題演習 | |
| 卒業考査 | | | | |

| | | |
|--------|---------------|------|
| 理 科 | 生 物 | 3 単位 |
| 第 3 学年 | 特進文理コース 選抜クラス | |

【授業目標】（文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成 30 年告示」）

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

【授業内容】

- (1) 生物の発生の仕組みや体の構造・応答などを学び、自己の体の応答や反応について深く考察する。また、生物基礎の内容を復習する機会を各章ごとに設ける。
- (2) 観察、実験などの体験的な学習活動を充実させる。
- (3) 科学やそれを応用した技術と日常生活のつながりを強調する。また、学習内容と職業等の関連性に触れ、学びの意欲を高める。
- (4) ICT機器を活用し、授業内での考察過程の共有や配信された動画の視聴、課題に取り組む。

【到達度】

定期考査の他に、各節終了時に確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%の得点が当該節の到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】



生物(3単位)：

- ・染色体に遺伝子が存在することを学習した上で、減数分裂・配偶子形成・細胞の分化と形態形成のしくみについて学習する。
- ・ニューロンの基本的な構造と働きを学び、受容器から効果器へ情報が伝わる経路を学習する。
- ・植物の環境応答と植物ホルモンとの関連について学ぶ。その際に、様々な受容体が関わっていることに触れる。
- ・生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性について学習する。
- ・生命の起源および生物の変遷、進化のしくみ、個々の系統分類の概要を学習する。

【成績評価】

成績の評価は、定期考査や確認テスト等による理解度及び到達度の評価と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を下記の「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階に評定する。

「3観点」： ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の観点①②に基づく出題をする。

【使用教材】

| 教材名 | 書 名 | 発 行 所 |
|-----|------------------------|-------|
| 教科書 | 生物（2年次購入済） | 数研出版 |
| 資料集 | ニューステージ 新生物図表（1年次購入済） | 浜島書店 |
| 問題集 | リードLightノート 生物（2年次購入済） | 数研出版 |

<年間計画>

| 月 | 週 | 授 業 内 容 | | 観点別学習と重点項目 | | | |
|--------|------|-----------------|-------------------|------------------------|-----------------|--|----|
| 4 | 1 | 第5章 動物の反応と行動 | 第1節 刺激の受容 | 【実習】 盲斑の検出 | ①② | | |
| | 2 | | 第2節 ニューロンとその興奮 | | ① | | |
| | 3 | | 第3節 情報の統合 | | ① | | |
| 5 | 4 | | 第4節 刺激への反応 | | ② | | |
| | 5 | | 第5節 動物の行動 | | ②③ | | |
| | 6 | | | | | | |
| 前期中間考査 | | | | | | | |
| 6 | 8 | 第6章 植物の環境応答 | 第1節 植物の生活と植物ホルモン | 【思考】 植物の器官形成 ABCモデル | ①② | | |
| | 9 | | | | | | |
| | 10 | | 第2節 発芽の調節 | | ①③ | | |
| | 11 | | 第3節 成長の調節 | | ① | | |
| | 12 | | 第4節 器官の分化と化芽形成の調節 | | ①② | | |
| 前期期末考査 | | | | | | | |
| 7 | 13 | | | | | | |
| | 14 | | 第5節 環境に対応する変化 | | ①② | | |
| 夏季休業 | | | | | | | |
| 9 | 15 | | 第6節 配偶子の形成と受精 | | ① | | |
| | 16 | | | | | | |
| | 17 | 第7章 生物群集と生態系 | 第1節 個体群の構造と性質 | 【思考】 標識再捕法 | ①② | | |
| | 18 | | 第2節 個体群内の個体間の関係 | | ②③ | | |
| | 19 | | | | | | |
| 10 | 20 | | | | 第3節 異なる種の個体群の関係 | | ②③ |
| | 21 | | | | | | |
| | 22 | | 第4節 生態系の物質生産と物質循環 | 【思考】 生態系の物質収支 | ②③ | | |
| | 23 | | | | | | |
| 11 | 24 | | 第5節 生態系と人間生活 | | ②③ | | |
| | 25 | | | | | | |
| | 26 | 後期中間考査 | | | | | |
| | 27 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 28 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| 12 | 29 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 30 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 31 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 冬季休業 | | | | | | |
| 1 | 32 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 33 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 34 | | リード light ノート演習 | | ①②③ | | |
| | 35 | 卒業考査 | | | | | |
| 2 | 36 | | | | | | |
| | 37 | | | | | | |
| | 38 | | | | | | |

| | | |
|---------|---------------|-------|
| 理 科 | 生 物 | 3 単 位 |
| 第 3 学 年 | 特進文理コース 特進クラス | |

【授業目標】（文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成 30 年告示」）

生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (4) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (5) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
- (6) 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。

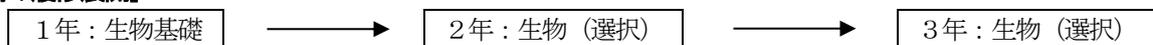
【授業内容】

- (1) 生物の発生の仕組みや体の構造・応答などを学び，自己の体の応答や反応について深く考察する。また，生物基礎の内容を復習する機会を各章ごとに設ける。
- (2) 観察，実験などの体験的な学習活動を充実させる。
- (3) 科学やそれを応用した技術と日常生活のつながりを強調する。また，学習内容と職業等の関連性に触れ，学びの意欲を高める。
- (4) ICT機器を活用し，授業内での考察過程の共有や配信された動画の視聴，課題に取り組む。

【到達度】

定期考査の他に，各節終了時に確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%の得点が当該節の到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】



生物(3単位)：

- ・染色体に遺伝子が存在することを学習した上で，減数分裂・配偶子形成・細胞の分化と形態形成のしくみについて学習する。
- ・ニューロンの基本的な構造と働きを学び，受容器から効果器へ情報が伝わる経路を学習する。
- ・植物の環境応答と植物ホルモンとの関連について学ぶ。その際に，様々な受容体が関わっていることに触れる。
- ・生態系における，生物間の関係性及び生物と環境との関係性について学習する。
- ・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成についてその詳細なしくみを学習する。その際，遺伝情報の変化についても学ぶ。
- ・染色体に遺伝子が存在することを学習した上で，減数分裂・配偶子形成・細胞の分化や形態形成のしくみについて学習する。

【成績評価】

成績の評価は，定期考査や確認テスト等による理解度及び到達度の評価と，観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート，発表等の評価を下記の「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し，5段階に評定する。

「3観点」： ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお，定期考査は上記の観点①②に基づく出題をする。

【使用教材】

| 教材名 | 書 名 | 発 行 所 |
|-----|------------|-------|
| 教科書 | 生物（2年次購入済） | 数研出版 |

| | | |
|-----|------------------------|------|
| 資料集 | ニューステージ 新生物図表（1年次購入済） | 浜島書店 |
| 問題集 | リードLightノート 生物（2年次購入済） | 数研出版 |

<年間計画>

| 月 | 週 | 授 業 内 容 | | 観点別学習と重点項目 | |
|------|--------|-------------------|-------------------|-----------------------------|--|
| 4 | 1 | 第4章 遺伝情報の発現と発生 | 第1節 DNAの構造と複製 | ① | |
| | 2 | | 第2節 遺伝情報の発現 | ① | |
| | 3 | | | | |
| 5 | 4 | | 第3節 遺伝子の発現調節 | ② | |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | 第4節 発生と遺伝子発現 | ①③ | |
| | 7 | 前期中間考査 | | | |
| 6 | 8 | | 第5節 遺伝子を扱う技術 | ②③ | |
| | 9 | 第5章 動物の反応と行動 | 第1節 刺激の受容 | 【実習】盲斑の検出 ①② | |
| | 10 | | | | |
| | 11 | | 第2節 ニューロンとその興奮 | ① | |
| | 12 | | 第3節 情報の統合 | ① | |
| 13 | 前期期末考査 | | | | |
| 7 | 14 | | 第4節 刺激への反応 | ② | |
| 8 | 夏季休業 | | | | |
| 9 | 15 | | | | |
| | 16 | | 第5節 動物の行動 | ②③ | |
| | 17 | | | | |
| | 18 | 第6章 植物の環境応答 | 第1節 植物の生活と植物ホルモン | 【思考】植物の器官形成 ABCモデル ①② | |
| | 19 | | | | |
| 10 | 20 | | 第2節 発芽の調節 | ①③ | |
| | 21 | | | | |
| | 22 | | 第3節 成長の調節 | ① | |
| | 23 | | | | |
| 11 | 24 | | 第4節 器官の分化と化芽形成の調節 | ①② | |
| | 25 | | | | |
| | 26 | | 第5節 環境に対応する変化 | ①② | |
| | 27 | 後期中間考査 | | | |
| | 28 | | 第6節 配偶子の形成と受精 | ① | |
| 12 | 29 | 第7章 生物群集と生態系 | 第1節 個体群の構造と性質 | 【思考】標識再捕法 ①② | |
| | 30 | | | | |
| | 31 | | 第2節 個体群内の個体間の関係 | ②③ | |
| 冬季休業 | | | | | |
| 1 | 32 | | 第3節 異なる種の個体群の関係 | ②③ | |
| | 33 | | 第4節 生態系の物質生産と物質循環 | 【思考】生態系の物質収支 ②③ | |
| | 34 | | 第5節 生態系と人間生活 | ②③ | |
| | 35 | 卒業考査 | | | |
| 2 | 36 | | | | |
| | 37 | | | | |

| | | |
|--------|------------------|------|
| 理科 | 化学 | 2 単位 |
| 第 3 学年 | 普通科 特進文理コース [選抜] | |

2024 年度

【授業目標】 (文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成 30 年告示」)

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

【授業内容】

1. 化学と人間生活との関わりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや、化学が人間生活で果たす役割を理解させ、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。
2. 授業では、化学反応式を用いた解説が多くなるため、物質を表す化学式は徹底して覚える必要がある。また、実験、観察、創作活動なども行われる。したがって、実験操作や観察の仕方、器具・薬品の取り扱い方の学習も重要である。
3. 理論編では、化学的な事物・現象について、実験や観察を通して系統的に学習し、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。物質編では、物質の性質、製法、用途、反応のメカニズムについて、実験や観察を通して系統的に学習し、化学反応式が書けるようにする。これにより化学と人間生活の関わりについて考察する。
4. これから迎える社会では高い思考力と暗記力だけでなく、文章を読んで瞬時に意図を科学的に処理し、理解する判断力も要求される。したがって講義に加えて演習（自主学習）にも力を入れなければならない。授業中に配布されるもの、授業中に練習する機会を大切に、将来を見据えた学習を意識する。

【到達度および成績評価】

定期考査の他に、適宜小テストを実施する。重要な単元では実験を行い、学習内容の確認・定着を図る。テストにおいて概ね 70%以上の得点が到達目標とする。前期末および学年末の成績評定は 5 段階である。定期考査、確認テストによる理解度および到達度と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表、提出物などを下記の「3 観点」を 3 段階 (A, B, C) で評価し評定を与える。

- ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の 3 観点に基づく出題をする。

【大学選抜試験科目への対応】

化学基礎に引き続き化学を学習すると、大学入学共通テスト及び他の入試の受験科目として対応できる。特に理工系学部、農獣医学系学部、医歯薬系学部への進学を希望する場合は、化学の履修を終える必要がある。なお授業時間の設定上、教科書のすべてを履修することができないため、一般選抜で大学受験をする場合は自主学習が必要となる。

【使用教材】

| 教材名 | 書名 | 出版社名 |
|-----|----|------|
|-----|----|------|

| | | |
|-----|---------------------------|------|
| 教科書 | 「化学」 Vol.1 理論編, Vol.2 物質編 | 東京書籍 |
| 問題集 | ニューサポート 改訂 新編 化学 | 東京書籍 |

【年間授業計画】

授業進度ならびに学習単元は下記の通りである。

＜観点別評価＞ 凡例：①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に取り組む態度

| | 月 | 学習単元 | 実験・探求学習 / 観点別評価 |
|----|----|---|------------------|
| 前期 | 4 | <1編 物質の状態> ・物質の三態 ・気体液体間の状態変化 ・気体 | |
| | 5 | ・気体の状態方程式 ・溶解/希薄溶液の性質 ・コロイド 【前期中間考査】 | 【実験】コロイド溶液の性質①③ |
| | 6 | ・金属結晶の構造 ・イオン結晶の構造 ・分子結晶と共有結合の結晶 【前期期末考査】 | 【実験】単位格子の作製①②③ |
| | 7 | <2編 化学反応とエネルギー> ・反応とエンタルピーの変化 ・ヘスの法則 | 【実験】反応熱の測定①②③ |
| | 8 | ・電池 ・電気分解 | |
| | 9 | <3編 化学反応の速さと平衡> ・反応の速さ ・可逆反応と化学平衡 ・平衡の移動 | 【実験】様々な化学反応①③ |
| 後期 | 10 | <4編 無機物質> ・周期表と元素 ・水素と希ガス ・酸素と硫黄 ・ハロゲン ・窒素とリン ・炭素とケイ素 | 【実験】硫酸の性質①③ |
| | 11 | ・アルカリ金属とその化合物 ・アルカリ土類金属とその化合物 ・遷移元素とその化合物 【後期中間考査】 | 【実験】金属ナトリウムの性質①③ |
| | 12 | <5編 有機化合物> ・有機化合物の構造式の決定 ・飽和炭化水素/不飽和炭化水素 ・アルコール, エーテル, アルデヒド, ケトン | 【実験】アルデヒドの検出反応①③ |
| | 1 | ・カルボン酸, エステル, 油脂, セッケン ・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 【卒業考査】 | 【実験】医薬品のメカニズム②③ |
| | 2 | | |
| 3 | | | |

※<6編 高分子化合物>授業時数の都合上、実施予定はなし。必要な生徒には個別対応する。

| | | |
|-------|----------------|-----|
| 保健体育科 | 体 育 | 3単位 |
| 第3学年 | 特准文理コース（選抜クラス） | |

【 授業目標 】

本校における体育授業の目標は、各種の身体活動を通して運動技能を高め、心身共に健康で生涯にわたり運動に親しめる態度を養うことである。

【 授業内容・種目 】

【 集団行動 】… 集団の約束やきまりを守り、機敏かつ的確に行動する。

- ・ラジオ体操第一（準備体操として通年実施する）
- ・全体行進、番号のかけ方、列の増減などを行う。

【 バドミントン 】

- ・基本となるクリアーが正確に打てるようにする。
- ・応用技術 ドライブ・スマッシュ・ドロップなどの各種ショットが打ち分けられるようにする。
- ・シングルス、ダブルスそれぞれのルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ハンドボール 】

- ・いろいろな体勢から正確にパスを投げ、また正確にキャッチができるように練習する。
- ・動きの中でパス、キャッチ、シュートの一連の動作がスムーズに行えるようにする。
- ・ゴールキーパーとの連携、チーム戦術を習得しレベルの高い試合ができるようにする。

【 フットサル 】

- ・基本技術であるドリブルとリフティングが正確にできるようにする。
- ・パスとトラッピング 2対1、3対2など動きの中での的確にプレーが行えるようにする。
- ・シュートとコンビネーションプレーをできるようにする。
- ・ルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ソフトバレー 】

- ・基本姿勢から場面に応じてそれぞれのパスの球質を使い分ける。
- ・ポイントに結びつくような球質のサービスを身につける。
- ・スパイカーに打ちやすいトスを上げられるようにする。
- ・それぞれの技能を習得した段階でゲームを楽しむ。

【 バスケットボール 】

- ・基本技術 パス、ドリブル及び正確なシュートを体得する。
- ・2対2、3対3のコンビネーションプレーを習得する。
- ・ゲームを通してバスケットのルール・審判法を身につける。

【 体育理論 】

- ・体ほぐしの考え方 ・体ほぐしの運動のおこない方
- ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的
- ・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・②
- ・運動によるけが・病気の予防

【 授業の留意点 】

- 見学希望者は授業開始前に担当教員の許可を得ること。また見学中はジャージを着用すること。
- 個人のジャージ・シューズ等は大切に管理し、貸し借りをしないこと。
- 体育用具・備品は大切に扱うこと。

【 成績評価 】

【知識・技能】 ・各領域、各種目の運動の特性を理解し、運動の技術（技）の名称や行い方等、段階に応じた技能を身につけているか。 ・スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について理解しているか。

【思考・判断・表現】 ・効果的な練習方法を理解し、実践しているか。 ・各種目で戦術、課題解決方法を理解しているか。

【主体的に取り組む態度】 ・公正、協力、責任などの態度を身につけているか。

・健康、安全に留意して自ら率先して楽しみながら運動しようとしているか。

以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断する。

＜ 年間計画 ＞

| 月 | 授 業 内 容 | |
|---|--|--|
| | 男 子 | 女 子 |
| 4 | 【集団行動】 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一 | 【集団行動】 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一 |
| 5 | 【バドミントン】 ・単元の説明 ・グリップとフットワーク | 【ハンドボール】 ・単元の説明 ・キャッチボールとパス ・シュート練習 ジャンプシュート ステップシュート |
| 前 期 中 間 考 査 | | |
| 6 | ・クリアの打ち方 ・各種ショットとサービス ・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス) | ・オフェンス カットイン・クロス・ブロックプレー ・ディフェンス フットワーク シュートカット・ ゴールキーピング ・ゲームと審判法 |
| 前 期 期 末 考 査 | | |
| 7 | 【フットサル】 ・単元の説明 ・基本技術 リフティング ドリブル キック トラッピング | 【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス アンダーハンドパス |
| 【体育理論】 ・体のほぐしの考え方 ・体のほぐしの運動のおこない方 ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的 | | |
| 夏 季 休 業 | | |
| 8 | ・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・② ・運動によるけが ・病気の予防 | |
| 9 | ・シュートとコンビネーション ・ゴールキーピング ・ゲームと審判法 | ・スパイクブロック ・サブとレシーブ ・チームプレーとローテーション ・ゲームと審判法 |
| 10 | 【バスケットボール】 ・単元の説明 ・パス練習 ・ドリブル練習 | 【ソフトテニス】 ・単元の説明 ・ラケットの握り方 ・ラケットを使ったボールゲーム |
| 11 | ・動きの中でのパス、ドリブル ・シュート ドリブルシュート セットシュート | ・基本的な打法 ①グラウンドストローク ②ボレー ③スマッシュ ④サービス |
| 後 期 中 間 考 査 | | |
| ・ゲームと審判法 | | ・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス) |
| 12 | 【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス | 【バスケットボール】 ・単元の説明 ・シュート ドリブルシュート セットシュート |
| 冬 季 休 業 | | |
| 1 | アンダーハンドパス ・スパイクブロック・サブとレシーブ ・ゲームと審判法 | ・シュート ドリブルシュート セットシュート ・コンビネーションプレー ・ゲームと審判法 |
| 卒 業 考 査 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 学 年 末 休 業 | | |

| | | |
|-------|----------------|-----|
| 保健体育科 | 体 育 | 3単位 |
| 第3学年 | 特進文理コース（特進クラス） | |

[授業目標]

本校における体育授業の目標は、各種の身体活動を通して運動技能を高め、心身共に健康で生涯にわたり運動に親しめる態度を養うことである。

[授業内容・種目]

【 集団行動 】… 集団の約束やきまりを守り、機敏かつ的確に行動する。

- ・ラジオ体操第一（準備体操として通年実施する）
- ・全体行進、番号のかけ方、列の増減などを行う。

【 バドミントン 】

- ・基本となるクリアーが正確に打てるようにする。
- ・応用技術 ドライブ・スマッシュ・ドロップなどの各種ショットが打ち分けられるようにする。
- ・シングルス、ダブルスそれぞれのルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ハンドボール 】

- ・いろいろな体勢から正確にパスを投げ、また正確にキャッチができるように練習する。
- ・動きの中でパス、キャッチ、シュートの一連の動作がスムーズに行えるようにする。
- ・ゴールキーパーとの連携、チーム戦術を習得しレベルの高い試合ができるようにする。

【 フットサル 】

- ・基本技術であるドリブルとリフティングが正確にできるようにする。
- ・パスとトラッピング 2対1、3対2など動きの中での的確にプレーが行えるようにする。
- ・シュートとコンビネーションプレーをできるようにする。
- ・ルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 ソフトバレー 】

- ・基本姿勢から場面に応じてそれぞれのパスの球質を使い分ける。
- ・ポイントに結びつくような球質のサービスを身につける。
- ・スパイカーに打ちやすいトスを上げられるようにする。
- ・それぞれの技能を習得した段階でゲームを楽しむ。

【 バスケットボール 】

- ・基本技術 パス、ドリブル及び正確なシュートを体得する。
- ・2対2、3対3のコンビネーションプレーを習得する。
- ・ゲームを通してバスケットのルール・審判法を身につける。

【 体育理論 】

- ・体ほぐしの考え方 ・体ほぐしの運動のおこない方
- ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的
- ・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・②
- ・運動によるけが・病気の予防

[授業の留意点]

- 見学希望者は授業開始前に担当教員の許可を得ること。また見学中はジャージを着用すること。
- 個人のジャージ・シューズ等は大切に管理し、貸し借りをしないこと。
- 体育用具・備品は大切に扱うこと。

[成績評価]

【知識・技能】 ・各領域、各種目の運動の特性を理解し、運動の技術（技）の名称や行い方等、段階に応じた技能を身につけているか。 ・スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について理解しているか。

【思考・判断・表現】 ・効果的な練習方法を理解し、実践しているか。 ・各種目で戦術、課題解決方法を理解しているか。

【主体的に取り組む態度】 ・公正、協力、責任などの態度を身につけているか。

- ・健康、安全に留意して自ら率先して楽しみながら運動しようとしているか。

以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断する。

＜ 年間計画 ＞

| 月 | 授 業 内 容 | |
|---|--|--|
| | 男 子 | 女 子 |
| 4 | 【集団行動】 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一 | 【集団行動】 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足 ・ラジオ体操第一 |
| 5 | 【バドミントン】 ・単元の説明 ・グリップとフットワーク | 【ハンドボール】 ・単元の説明 ・キャッチボールとパス ・シュート練習 ジャブシュート ステップシュート |
| 前 期 中 間 考 査 | | |
| 6 | ・クリアの打ち方 ・各種ショットとサービス ・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス) | ・オフェンス カットイン・クロス・ブロックプレー ・ディフェンス フットワーク シュートカット・ ゴールキーピング ・ゲームと審判法 |
| 前 期 期 末 考 査 | | |
| 7 | 【フットサル】 ・単元の説明 ・基本技術 リフティング ドリブル キック トラッピング | 【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス アンダーハンドパス |
| 【体育理論】 ・体のほぐしの考え方 ・体のほぐしの運動のおこない方 ・運動と体力 ・体力トレーニングの目的 | | |
| 夏 季 休 業 | | |
| 8 | ・トレーニングプログラムの作成 ・目的別にみた体力トレーニングの方法①・② ・運動によるけが ・病気の予防 | |
| 9 | ・シュートとコンビネーション ・ゴールキーピング ・ゲームと審判法 | ・スパイクブロック ・サブとレシーブ ・チームプレーとローテーション ・ゲームと審判法 |
| 10 | 【バスケットボール】 ・単元の説明 ・パス練習 ・ドリブル練習 | 【ソフトテニス】 ・単元の説明 ・ラケットの握り方 ・ラケットを使ったボールゲーム |
| 11 | ・動きの中でのパス、ドリブル ・シュート ドリブルシュート セットシュート | ・基本的な打法 ①グラウンドストローク ②ボレー ③スマッシュ ④サービス |
| 後 期 中 間 考 査 | | |
| ・ゲームと審判法 | | ・ゲームと審判法 (シングルス・ダブルス) |
| 12 | 【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス | 【バスケットボール】 ・単元の説明 ・シュート ドリブルシュート セットシュート |
| 冬 季 休 業 | | |
| 1 | アンダーハンドパス ・スパイクブロック・サブとレシーブ ・ゲームと審判法 | ・シュート ドリブルシュート セットシュート ・コンビネーションプレー ・ゲームと審判法 |
| 卒 業 考 査 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 学 年 末 休 業 | | |

| | | |
|-----|--------------|-----|
| 英語科 | 英語コミュニケーションⅢ | 4単位 |
| 3学年 | 特進文理コース（選抜） | |

<授業目標>

1. 入試問題の核となっている長文問題に対応するため、多くの英文を読み読解力と速読力を養成する。
2. 大学入試共通テスト「英語」の半分の点数を占めるリスニングに対応するため、多くの英文を聞きリスニング能力を養成する。
3. 説明文、物語文、伝記、日記、エッセイ等多種多様な英文を読む・聞くことで、英語読解のみに偏らず、国際社会問題等の幅広い知識を身に付ける。
4. 国公立大学2次試験および難関私立大学の問題演習を通して、実践力を養成する。
5. 模試において偏差値60以上(進研模試)・55以上(河合塾模試) 実用英語検定試験2級合格を目標とする。

<授業内容>

1. 英語の語順に沿って意味を的確につかむよう、意味のまとまりごとに区切りを入れて読むスラッシュリーディング、段落ごとの大意をつかむパラグラフリーディングなどを取り入れてテキストを読む。文法、文などにも留意しながら読み、文の構造を学ぶ精読と、教材等を利用し、出来るだけ多くの英文を読んで、英語に触れる機会を多くするための多読や繰り返しの音読を行う。
2. 語彙を増やすために副教材を利用して、英単語、熟語に関する小テストを行う。
3. 理解度に合わせて、文法、語法、構文に関する問題演習などを補足的に行う。

<使用教材>

| 教材名 | 書名 | 出版社 |
|-----|---|-------|
| 教科書 | ENRICH LEARNING English Communication III | 東京書籍 |
| 副教材 | 大学入学共通テスト リスニング分野別 10min. | エミル出版 |
| | 共通テスト英語 読解トレーニング | エミル出版 |

<成績評価>

| 評価の観点 | | | |
|---|---|----------------------------|---|
| コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての 知識・理解 |
| 英文の内容に関心を持ち、積極的に理解することができる。 周囲と積極的に英語で意見交換をすることができる。 | 本文の内容を、学習事項を用いて英文で再現することができる。 内容に関して、感想や意見を伝え合うことができる。 | 本文の内容についての質問に英語で答えることができる。 | 文法事項を理解し、適切に使用することができる。 意味の区切りを意識し、相手が理解しやすいように音読することができる。 |

<3年間の履修展開>

1年次:英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰ
↓
2年次:英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅱ
↓
3年次:英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅱ

<探求学習> 随時実施予定

<年間計画>

| 月 | 週 | 学習内容 |
|----|----|--|
| 4 | 1 | Lesson 1 What thinking and study habits can help us succeed? |
| | 2 | Lesson 1 What thinking and study habits can help us succeed? |
| | 3 | Lesson 1 What thinking and study habits can help us succeed? |
| 5 | 4 | Lesson 2 How can we use AI to improve education? |
| | 5 | Lesson 2 How can we use AI to improve education? |
| | 6 | Lesson 2 How can we use AI to improve education? |
| | 7 | 前期中間考査 |
| | 8 | 読解トレーニング |
| 6 | 9 | Lesson 3 What do folktales tell us about human values? |
| | 10 | Lesson 3 What do folktales tell us about human values? |
| | 11 | Lesson 3 What do folktales tell us about human values? |
| | 12 | Lesson 4 What items would you place in a time capsule? |
| 7 | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | Lesson 4 What items would you place in a time capsule? |
| | 15 | Lesson 4 What items would you place in a time capsule? |
| 8 | | 夏季休業 |
| | 16 | Lesson 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? |
| 9 | 17 | Lesson 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? |
| | 18 | Lesson 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? |
| | 19 | Lesson 6 How can art be made accessible to all? |
| | 20 | Lesson 6 How can art be made accessible to all? |
| 10 | 21 | Lesson 6 How can art be made accessible to all? |
| | 22 | Lesson 7 How can we preserve life below water? |
| | 23 | Lesson 7 How can we preserve life below water? |
| | 24 | Lesson 7 How can we preserve life below water? |
| 11 | 25 | Lesson 8 Is there anything money can't buy? |
| | 26 | Lesson 8 Is there anything money can't buy? |
| | 27 | Lesson 8 Is there anything money can't buy? |
| | 28 | 後期中間考査 |
| 12 | 29 | 大学入学共通テスト対策 |
| | 30 | 大学入学共通テスト対策 |
| | 31 | 大学入学共通テスト対策 |
| | 32 | 大学入学共通テスト対策 |
| | | 冬季休業 |
| 1 | 33 | 大学入学共通テスト対策 |
| | 34 | 大学入学共通テスト対策 |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|-----|--------------|-----|
| 英語科 | 英語コミュニケーションⅡ | 4単位 |
| 3学年 | 特進文理コース | |

<授業目標>

1. 大学入試問題の核となっている長文問題に対応するため、多くの英文を読み読解力と速読力を養成する。
2. 大学入試を視野に入れ、多くの英文を聞きリスニング能力を養成する。
3. 説明文、物語文、伝記、日記、エッセイ等多種多様な英文を読む・聞くことで、英語読解のみに偏らず、国際社会問題等の幅広い知識を身に付ける。
4. 国公立大学2次試験および難関私立大学の問題演習を通して、実践力を養成する。
5. 模擬試験の偏差値 進研模試55以上を目標とする。
6. 実用英語検定試験準2級合格を目標とする。

<授業内容>

1. 英語の語順に沿って意味を的確につかむよう、意味のまとまりごとに区切りを入れて読むスラッシュリーディング、段落ごとの大意をつかむパラグラフリーディングなどを取り入れてテキストを読む。文法、文などにも留意しながら読み、文の構造を学ぶ精読と、教材等を利用し、出来るだけ多くの英文を読んで、英語に触れる機会を多くするための多読や繰り返しの音読を行う。
2. 語彙を増やすために、教科書本文に出てくる英単語、熟語に関する小テストを行う。
3. 理解度に合わせて、文法、語法、構文に関する問題演習などを補足的に行う。

<使用教材>

| 教材名 | 書名 | 出版社 |
|-----|-----------------------------------|------|
| 教科書 | Power On English Communication II | 東京書籍 |
| 副教材 | Enjoy ドリルで英文法 | 美誠社 |

<成績評価>

| 評価の観点 | | | |
|---|---|----------------------------|---|
| コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての 知識・理解 |
| 英文の内容に関心を持ち、積極的に理解することができる。 周囲と積極的に英語で意見交換をすることができる。 | 本文の内容を、学習事項を用いて英文で再現することができる。 内容に関して、感想や意見を伝え合うことができる。 | 本文の内容についての質問に英語で答えることができる。 | 文法事項を理解し、適切に使用することができる。 意味の区切りを意識し、相手が理解しやすいように音読することができる。 |

<3年間の履修展開>

1年次:コミュニケーション英語Ⅰ、論理・表現Ⅰ
↓
2年次:コミュニケーション英語Ⅱ、論理・表現Ⅱ
↓
3年次:コミュニケーション英語Ⅱ、論理・表現Ⅱ

<探求学習> 随時実施予定

<年間計画>

| 月 | 週 | 学習内容 |
|----|------|---|
| 4 | 1 | 文法事項復習 |
| | 2 | Lesson 6 New Banknotes 紙紙幣とキャッシュレス社会について読み取る |
| | 3 | Lesson 6 New Banknotes キャッシュレス社会について賛成・反対両方の意見をまとめ、発表する |
| 5 | 4 | Lesson 6 New Banknotes キャッシュレス社会について賛成・反対両方の意見をまとめ、発表する |
| | 5 | Lesson 7 Some Secrets about Colors 色の効果について読み取る |
| | 6 | Lesson 7 Some Secrets about Colors 色の効果について読み取る |
| | 7 | 前期中間考査 |
| 6 | 8 | Lesson 7 Some Secrets about Colors 色の心理的効果を考慮して、部屋の壁の色について提案する |
| | 9 | Zoom in with コーパス 副詞を選ぼう |
| | 10 | Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem 納豆パウダーの利点や可能性について読み取る |
| | 11 | Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem ある製品の説明をしながら製品を紹介する |
| 7 | 12 | Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem ある製品の説明をしながら製品を紹介する |
| | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | 英作文演習 |
| 8 | 15 | 英語活用力 Up コーナー 英語で病状の説明 |
| | 夏季休業 | |
| 9 | 16 | Enjoy ドリルで英文法 不定詞・動名詞・分詞 |
| | 17 | Enjoy ドリルで英文法 不定詞・動名詞・分詞 |
| | 18 | Enjoy ドリルで英文法 不定詞・動名詞・分詞 |
| | 19 | Lesson 9 Flying after Her Dreams ベシー・コールマンの経歴、人物像、夢などについて読み取る |
| | 20 | Lesson 9 Flying after Her Dreams ベシー・コールマンの経歴、人物像、夢などについて読み取る |
| 10 | 21 | Lesson 9 Flying after Her Dreams 1900年ごろのアメリカの女性の就労についてペアでインタビュー活動を行う |
| | 22 | Enjoy ドリルで英文法 関係代名詞 |
| | 23 | Enjoy ドリルで英文法 関係代名詞 |
| | 24 | Enjoy ドリルで英文法 比較 |
| 11 | 25 | Enjoy ドリルで英文法 比較 |
| | 26 | Lesson 10 To work or Not to Work?: Humans and Robots ロボットと仕事について読み取る |
| | 27 | Lesson 10 To work or Not to Work?: Humans and Robots ロボットと仕事について読み取る |
| | 28 | 後期中間考査 |
| | 29 | Lesson 10 To work or Not to Work?: Humans and Robots 私たちの生活に役立つロボットを考えて発表する |
| 12 | 30 | Lesson 10 To work or Not to Work?: Humans and Robots 私たちの生活に役立つロボットを考えて発表する |
| | 31 | Enjoy ドリルで英文法 前置詞・接続詞 |
| | 32 | Enjoy ドリルで英文法 発展的な文 |
| | 冬季休業 | |
| 1 | 33 | Optional Reading |
| | 34 | Optional Reading |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|-----|-------------|-----|
| 英語科 | 論理・表現Ⅱ | 2単位 |
| 3学年 | 特進文理コース（選抜） | |

<授業目標>

1. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
2. 文法、構文等、英語の構造に対する理解を深め、英語で書く能力を高める。
3. 分詞や関係詞等の後置修飾を積極的に用いるなど、より豊かな表現力を養成する。
4. 副教材の文法・語法問題集を利用し、2年次までに学んだ文法事項を体系的に理解するとともに、応用力を養成する。

<授業内容>

1. テキストのポイントとなる英文法事項を確認し、その英文法を活用した英文を作成する。
2. 2年次までの既習事項の定着を図り、英語の構造に対する理解をさらに深めるため、副教材を利用して英文法、構文等の問題演習を行う。
3. 語彙力を増強し、用法に対する理解を深めるため、適宜語彙や熟語に関する小テストを行う。
4. 会話表現に関する知識を増やすため、副教材等も利用して演習を行う。

<使用教材>

| 教材名 | 書名 | 出版社 |
|-----|--|-----|
| 教科書 | APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION II | 開隆堂 |
| 副教材 | ブレイクスループラクティカルステージ | 美誠社 |
| | Breakthrough Upgraded English Grammar in 36 Lesson | |
| | Breakthrough 総合英語 | |

<成績評価>

| 評価の観点 | | | |
|---|---|---|--|
| コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・ 理解 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ文法を使って文章を書くことができる。 ・パラグラフの構成に基づき文章を書くことができる。 ・例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・紹介するトピックを決め、発表できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを正しく聞き取れる。 ・パラグラフの構成を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々なトピックの内容を理解することができる。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。 |

<3年間の履修展開>

1年次：英語コミュニケーションⅠ、論理・表現Ⅰ



2年次：英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅱ



3年次：英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅱ

<年間計画>

| 月 | 週 | 学習内容 |
|----|------|-----------------------------|
| 4 | 1 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第1章 |
| | 2 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第1、2章 |
| | 3 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第2、3章 |
| 5 | 4 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第3、4章 |
| | 5 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第4章 |
| | 6 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第5章 |
| | 7 | 前期中間考査 |
| | 8 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第6章 |
| 6 | 9 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第6、7章 |
| | 10 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第7、8章 |
| | 11 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第8章 |
| | 12 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第9、10章 |
| 7 | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第10、11章 |
| | 15 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第12章 |
| 8 | 夏季休業 | |
| | 16 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第13章 |
| 9 | 17 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第14章 |
| | 18 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第14章 |
| | 19 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第15章 |
| | 20 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第15章 |
| 10 | 21 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第16章 |
| | 22 | ブレイクスルー プラクティカルステージ 第16章 |
| | 23 | ブレイクスルー-36章 復習問題1 |
| | 24 | ブレイクスルー-36章 復習問題2 |
| 11 | 25 | ブレイクスルー-36章 復習問題3 |
| | 26 | ブレイクスルー-36章 復習問題4 |
| | 27 | ブレイクスルー-36章 復習問題5 |
| | 28 | 後期中間考査 |
| | 29 | ブレイクスルー-36章 復習問題6 |
| 12 | 30 | ブレイクスルー-36章 復習問題7 |
| | 31 | ブレイクスルー-36章 復習問題8 |
| | 32 | ブレイクスルー-36章 復習問題9 |
| | 冬季休業 | |
| 1 | 33 | ブレイクスルー-36章 復習問題10 |
| | 34 | ブレイクスルー-36章 復習問題11 |
| | 35 | 卒業考査 |

| | | |
|-----|---------|-----|
| 英語科 | 論理・表現Ⅱ | 2単位 |
| 3学年 | 特進文理コース | |

<授業目標>

1. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
2. 文法、構文等、英語の構造に対する理解を深め、英語で書く能力を高める。
3. 状況に応じ、適切な表現で自分の考えを表現する力を養う。
4. 自分の考えをシンプルかつ正確に表現する力を養う。

<授業内容>

1. テキストのポイントの言語事項を確認し、それに基づき、英語で文を作る。
2. 英語の構造に対する理解を深め、また1年次での既習の学習事項の定着を図るため、副教材を利用して英文法、構文等の問題演習を行う。
3. 語彙力を増強し、用法に対する理解を深めるため、適宜語彙に関する小テスト等を行う。
4. 会話表現に関する知識を増やすため、副教材等も利用して演習を行う。

<使用教材>

| 教材名 | 書名 | 出版社 |
|-----|--------------------------------|-----|
| 教科書 | MY WAY Logic and Expression II | 三省堂 |
| 副教材 | My Way サブノートⅡ | 三省堂 |
| | Enjoy ドリルで英文法 | 美誠社 |

<成績評価>

| 評価の観点 | | | |
|---|---|---|--|
| コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・ 理解 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ文法を使って文章を書くことができる。 ・パラグラフの構成に基づき文章を書くことができる。 ・例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・紹介するトピックを決め、発表できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを正しく聞き取れる。 ・パラグラフの構成を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々なトピックの内容を理解することができる。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。 |

<3年間の履修展開>

1年次：英語コミュニケーションⅠ、 論理・表現Ⅰ
↓
2年次：英語コミュニケーションⅡ、 論理・表現Ⅱ
↓
3年次：英語コミュニケーションⅡ、 論理・表現Ⅱ

<年間計画>

| 月 | 週 | 学習内容 |
|----|------|--|
| 4 | 1 | 2年次の復習 品詞 (Enjoy ドリルで英文法) |
| | 2 | 2年次の復習 時制・不定詞 (Enjoy ドリルで英文法) |
| | 3 | 2年次の復習 動名詞・分詞 (Enjoy ドリルで英文法) |
| 5 | 4 | Lesson7 Can We Go and Live on Mars? (関係代名詞・関係副詞) |
| | 5 | Lesson7 Can We Go and Live on Mars? (関係代名詞・関係副詞) |
| | 6 | Lesson7 Can We Go and Live on Mars? (関係代名詞・関係副詞) |
| | 7 | 前期中間考査 |
| | 8 | 関係代名詞・関係副詞の復習 (ドリルで英文法 Unit63-Unit66) |
| 6 | 9 | 関係代名詞・関係副詞の復習 (ドリルで英文法 Unit63-Unit66) |
| | 10 | Lesson8 Language and Society (仮定法) |
| | 11 | Lesson8 Language and Society (仮定法) |
| | 12 | Lesson8 Language and Society (仮定法) |
| 7 | 13 | 前期期末考査 |
| | 14 | Lesson8 Language and Society (仮定法) |
| | 15 | ドリルで英文法 (Unit72-75) |
| 8 | 夏季休業 | |
| | 16 | ディスカッションゲーム① |
| 9 | 17 | ディスカッションゲーム② |
| | 18 | ミニディベート① |
| | 19 | ミニディベート② |
| | 20 | Lesson9 Send our Love to the World (否定・代名詞) |
| 10 | 21 | Lesson9 Send our Love to the World (否定・代名詞) |
| | 22 | Lesson9 Send our Love to the World (否定・代名詞) |
| | 23 | Lesson9 Send our Love to the World (否定・代名詞) |
| | 24 | 身近な社会問題について意見を言ってみよう①身近な問題を探そう |
| 11 | 25 | 身近な社会問題について意見を言ってみよう②深く調べよう |
| | 26 | 身近な社会問題について意見を言ってみよう③発表しよう |
| | 27 | ドリルで英文法 (Unit76-78) |
| | 28 | 後期中間考査 |
| 12 | 29 | Lesson10 Follow in our Hero's Footsteps (無生物主語・that の表現) |
| | 30 | Lesson10 Follow in our Hero's Footsteps (無生物主語・that の表現) |
| | 31 | Lesson10 Follow in our Hero's Footsteps (無生物主語・that の表現) |
| | 32 | Lesson10 Follow in our Hero's Footsteps (無生物主語・that の表現) |
| | | 冬季休業 |
| 1 | 33 | ドリルで英文法 (Unit79-81) |
| | 34 | ドリルで英文法 (Unit82-83) |
| | 35 | 卒業考査 |